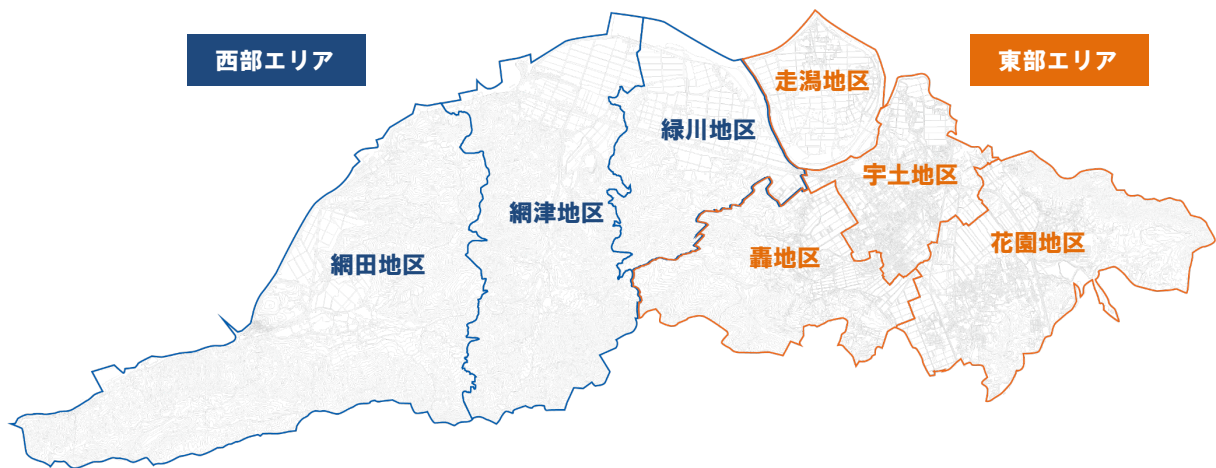


第4章 地区別構想

地区別構想は、全体構想で示した本市全域のまちづくり構想を基本としながら、各地区の個性や魅力、特徴に留意した地区単位のまちづくりの方向性を整理し展開するものです。

地域区分については、地形等の自然的条件や土地利用状況、既存コミュニティを考慮して、「宇土地区」「花園地区」「轟地区」「走潟地区」「緑川地区」「網津地区」「網田地区」の7地区に設定します。



1. 宇土地区

(1) 地区の現況

- 宇土地区は、東部エリアに位置する約 560ha の地区です。地区北西側より国管理河川である浜戸川が、中央には市管理河川である船場川や大坪川などが流れており、地区全体にわたって平地が広がっています。
- 本市の商業・業務や工業・流通の機能を有する中心地区であり、本市庁舎をはじめ多くの生活利便施設が立地しています。また、北側は農地が広がっています。
- 東側には JR 宇土駅が立地し、JR 鹿児島本線や JR 三角線、国道 3 号や国道 57 号などが通り、広域交通の結節点となっています。
- 人口の増減率の見通しをみると、一部増加がみられますが、概ね全域で減少し、特に市役所周辺や地区南側の減少率が高い傾向にあります。

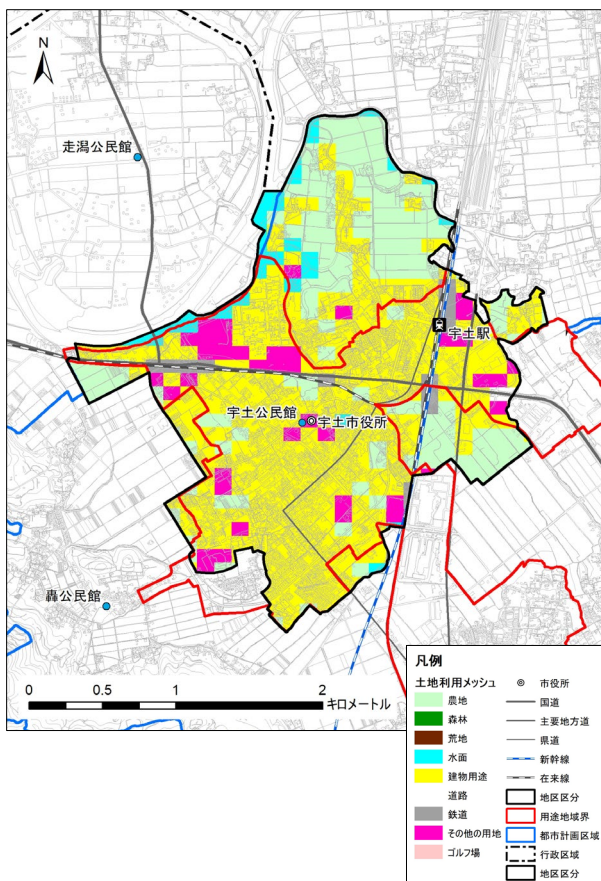
【面積・割合】

	面積	割合
宇土地区	562.9	100.0%
用途地域	309.6	55.0%
用途白地地域	244.8	43.5%
都市計画区域外	8.5	1.5%

※面積は行政区をベースに GIS 集計による図上面積

【土地利用の状況】

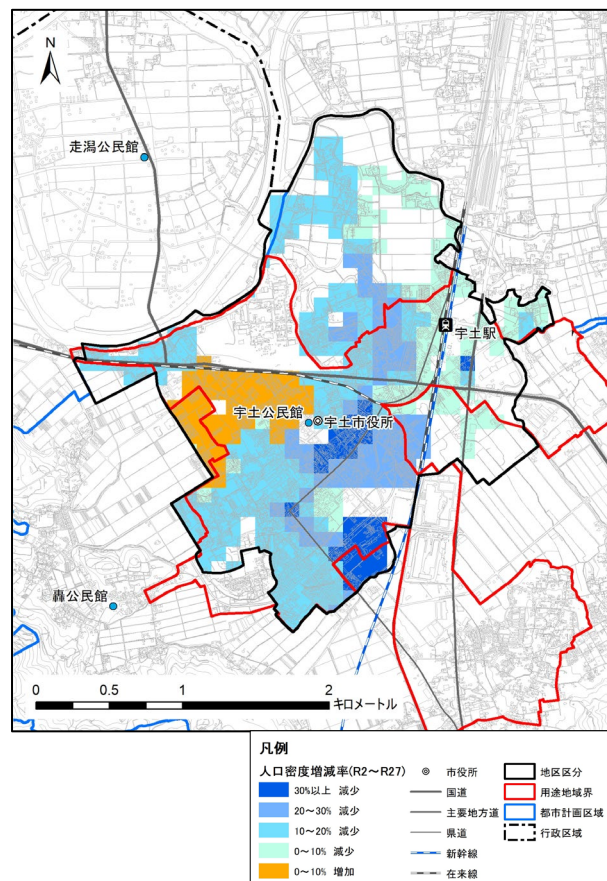
区域名	自然的土地利用				都市的土地利用					計 (ha)
	農地 (ha)	森林 (ha)	荒地 (ha)	水面 (ha)	建物 用途 (ha)	道路 (ha)	鉄道 (ha)	その他 の用地 (ha)	ゴルフ 場(ha)	
割合	25.9%	0.0%	0.0%	4.5%	59.2%	0.3%	2.5%	7.6%	0.0%	100.0%



資料：国土数値情報ダウンロードサービス

【人口推計 (R2-27 の増減率)】

	人口(人)			地域全体に占める割合		人口密度(人/ha)	
	R2	R27	増減率	R2	R27	R2	R27
宇土地区	13,184	11,385	-13.6%	100.0%	100.0%	24.2	20.9
用途地域	9,438	8,118	-14.0%	71.6%	71.3%	30.0	25.8
用途白地地域	3,746	3,267	-12.8%	28.4%	28.7%	17.0	14.8
都市計画区域外	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0	0.0



資料：国土交通省国土技術政策総合研究所

「将来人口・世帯予測ツール V3 (令和 2 年度国調対応版)」

【地区の魅力と課題（市民ワークショップの意見抜粋）】

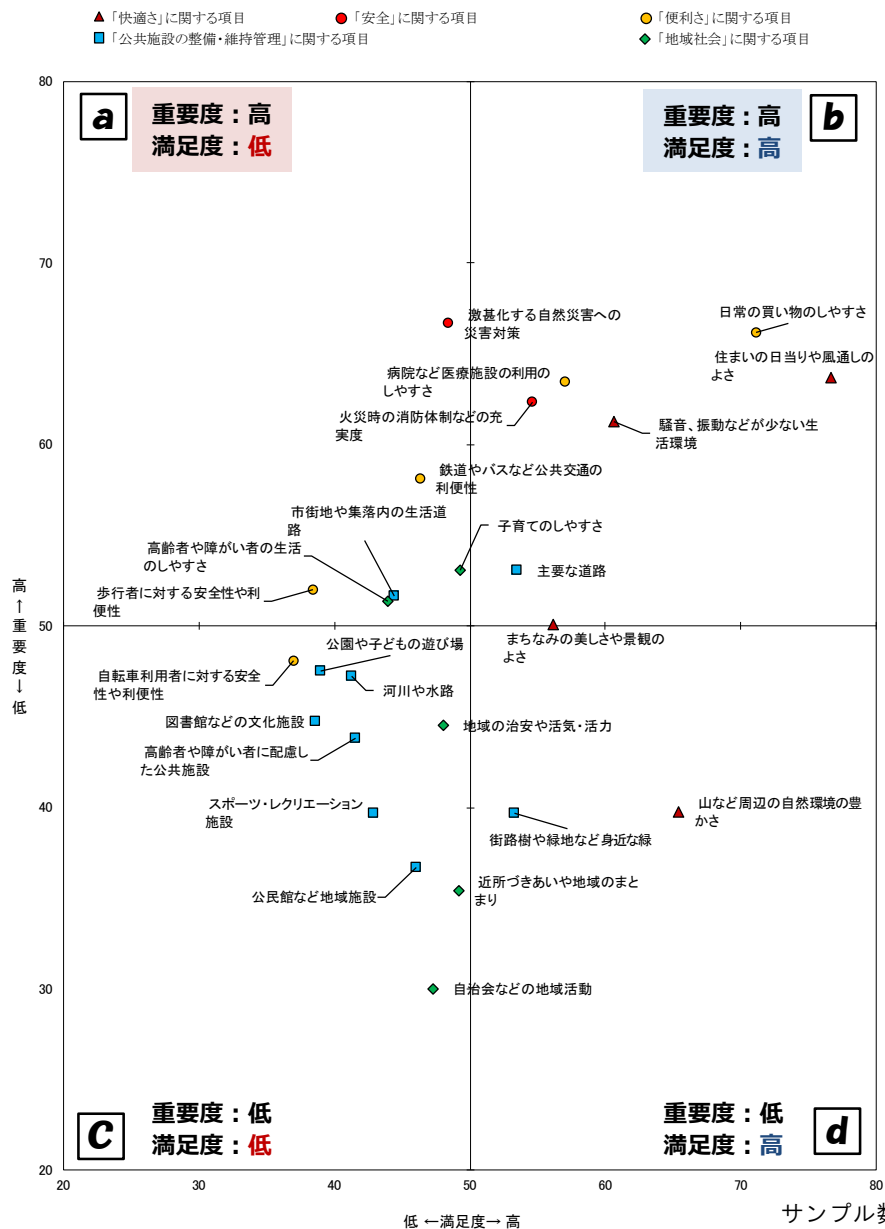
魅力	課題
・住宅環境や交通の利便性が高い ・都市と自然が調和している ・伝統的な祭りや史跡がある	・子どもの遊べる公園が少ない ・古い空き家が放置されている ・地域コミュニティの衰退

【20年後に向けた市民意向（市民ワークショップの意見抜粋）】

- ・最先端技術を活用したまち
- ・熊本市に近いベッドタウンのまち
- ・人と人がつながる交流空間のあるまち

【市民意向（R5 市民アンケート結果より）】

・「便利さ」や「快適さ」、「安全」の項目の重要度が高い傾向にあり、生活利便施設の「便利さ」や「快適さ」については満足度が高い一方、**道路交通環境における「快適さ」**については満足度が比較的低い傾向にあります。



(2) まちづくりの課題

基本的課題	
土地利用	●歴史的なまちなみの保全と都市空間の調和が求められています。 ●商業機能の維持と利便性の高い市街地形成が求められています。 ●空き家・空き地の利活用と地域活性化の推進が求められています。
都市施設整備	●公共交通の接続強化と環境負荷の低減が求められています。 ●歩行者重視の楽しい道路整備が求められています。 ●多目的交流施設の新設と既存施設の有効利用が求められています。
景観形成 自然環境	●市庁舎周辺の都市景観形成が求められています。 ●自然的環境と歴史的環境の保全や緑化の推進が求められています。
まちづくり 安全安心	●防災意識の啓発が求められています。 ●緊急輸送路の整備促進と沿線の耐震化等が求められています。 ●水害防止のための対策が求められています。 ●県管理河川の潤川の整備促進や市管理河川の船場川や大坪川の河川改修の推進が求められています。

(3) まちづくりの目標

中心市街地としての高い利便性と伝統を生かしたにぎわいのあるまち

(4) まちづくりの方針

宇土地区は、商業機能や産業流通機能を有する本市の中心的な地区であり、交通結節点という優れた立地環境を生かした土地利用やパークアンドライドの推進を図り、さらなる利便性の高い市街地の形成に取り組めます。また、本町通りや船場橋界隈などの歴史的なまちなみの保全を図るとともに、歩行者を重視した道路整備や多目的交流施設（サードプレイス）の整備など、にぎわいの創出に向けた取組を行います。



〈JR 宇土駅〉

■ 土地利用

- 中心市街地においては、県道 297 号川尻宇土線の本町 1 丁目から本町 6 丁目の区間である本町通りや船場橋界隈などの歴史的なまちなみを保全しつつ、都市空間と自然空間が調和し、散策のできるような空間形成を図ります。また、中心地としての魅力を提供する観点から、快適性ととも魅力あふれる空間の形成を図ります。
- 既存商業機能が集積する国道 3 号や県道 14 号八代鏡宇土線の沿道周辺では、商業機能の維持による保全を図りつつ、更に利便性の高い沿道市街地の形成を誘導します。
- 住宅地が密集し公園などのオープンスペースが不足する宇土東小学校の北側へは、新たなオープンスペースの設置を推進します。
- 空き家・空き地などの所有者を対象に、利活用に向けた制度の検討や周知などを行い、地域活性化を図ります。また、創業支援や新たな制度の検討や周知などを行い、中心市街地の活性化を図ります。
- 都市機能の向上を図る上で開発の可能性を有する宇土シティモール北側の農地については、幹線道路の機能を生かし、産業経済の発展や地区の活性化に向けて、行政主導による土地開発の推進や土地利用の誘導を図ります。また、地区内のその他利便性の高い地域では、計画的な土地利用調整による住宅開発等を誘導していくとともに、集落地の活力維持に必要な都市機能の確保に努めます。

■ 都市施設整備

- JR 宇土駅や駅舎周辺については、公共交通相互の接続強化や待ち環境の整備などにより、利便性向上に資する見直しを行います。また、多様化する交通手段への対応やパークアンドライドを推進し、交通渋滞の緩和や環境負荷の低減の実現を図ります。
- まちなかににぎわいを創出するため、歩行者を重視した歩くことが楽しい道路整備を推進します。
- 多目的交流施設（サードプレイス）を新設し、休憩スペースや子育て世帯等の交流スペース、幅広い年代の学習スペースなどを提供します。また、宇土市立図書館で行っている図書館業務を多目的交流施設へ移転するとともに、隣接する宇土市運動公園やその周辺施設との連携強化等を図ります。宇土市立図書館については、都市計画（変更・廃止）等の必要な手続きを行うとともに、既存施設の改修や建て替え等の有効利用を推進します。
- 宇土市老人福祉センターについては、地区の高齢者からの各種相談に応じるとともに、高齢者の地域内での交流を推進します。更に、健康増進や教養の向上、憩いの場としての提供も推進します。

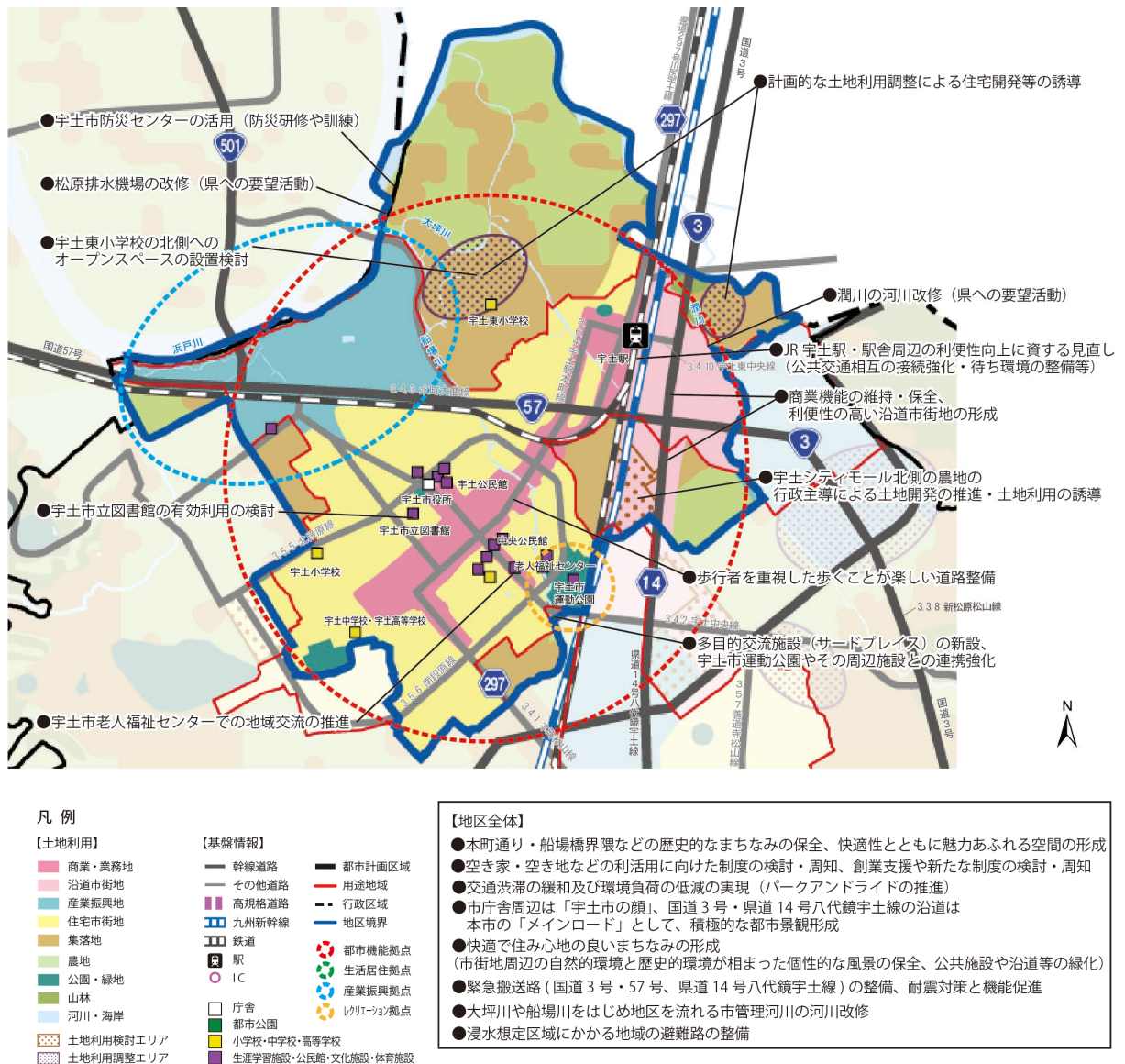
■ 自然環境・景観形成

- 市庁舎周辺は「宇土市の顔」として、また国道 3 号や県道 14 号八代鏡宇土線の沿道は本市の「メインロード」として、積極的に都市景観形成を推進します。
- 快適で住み心地の良いまちなみの形成を図るため、市街地周辺の自然的環境と歴史的環境が相まった個性的な風景の保全や公共施設や沿道等の緑化を推進します。

■ 安全安心まちづくり

- 松原排水機場の改修の早期完了に向けた要望活動に努め、排水機能向上を推進します。
- 防災活動についての研修や防災訓練の場として、宇土市防災センターの活用を図ります。
- 国道 3 号、国道 57 号、県道 14 号八代鏡宇土線を災害時の物資輸送のための緊急輸送路として位置づけ、ライフラインとしての整備を推進します。また、緊急輸送路沿道については、建築物や道路構造物の耐震化を推進します。
- 浸水想定区域にかかる地域については、近接する高台に安全で昇り易く、短時間で避難できるよう避難路の整備を図ります。
- 県管理河川である潤川については、河川改修の早期完了に向けた要望活動に努め、治水対策の推進を図るとともに、大坪川や船場川をはじめ地区を流れる市管理河川については河川改修を推進します。

■地区整備方針図（宇土地区）



2. 花園地区

(1) 地区の現況

- 花園地区は、東部エリアに位置する約 1,190ha の地区です。地区には県管理河川である潤川や市管理河川である曾畑川が流れており、地区北東側や南側に森林が、中央には平地が広がっています。
- 県道 14 号八代鏡宇土線沿いには商業・産業機能が位置し、山裾から幹線道路沿いの平地にかけて住宅が集積しており、農地や森林も広がっています。
- 国道 3 号や県道 14 号八代鏡宇土線、市道ウキウキロード打越・岩熊線沿線をはじめ多くの基幹的な幹線道路が通っています。
- 人口の増減の見通しをみると、地区中央で増加がみられますが、概ね全域で減少が見込まれ、特に地区東側の減少率が高い傾向にあります。

【面積・割合】

	面積	割合
花園地区	1186.7	100.0%
用途地域	174.9	14.7%
用途白地地域	615.4	51.9%
都市計画区域外	396.4	33.4%

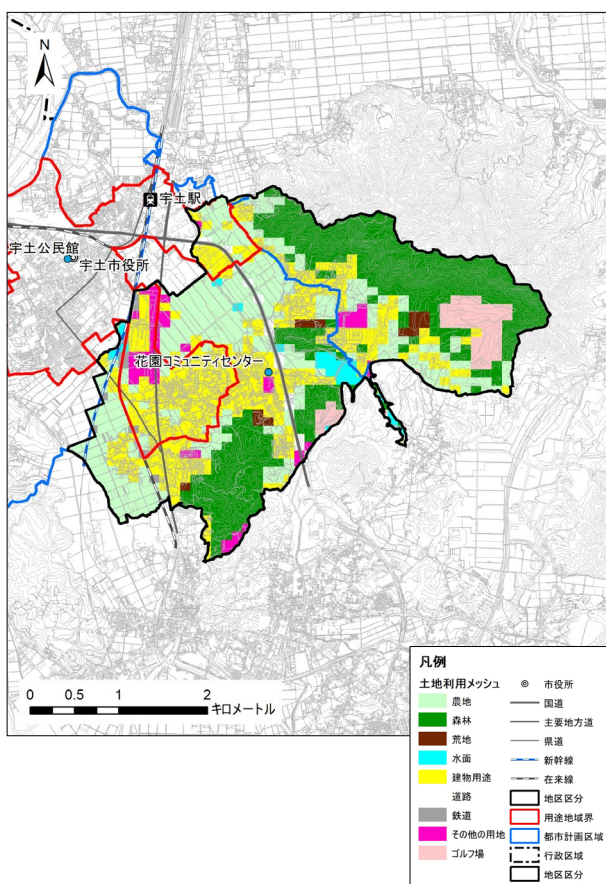
※面積は行政区をベースに GIS 集計による図上面積

【土地利用の状況】

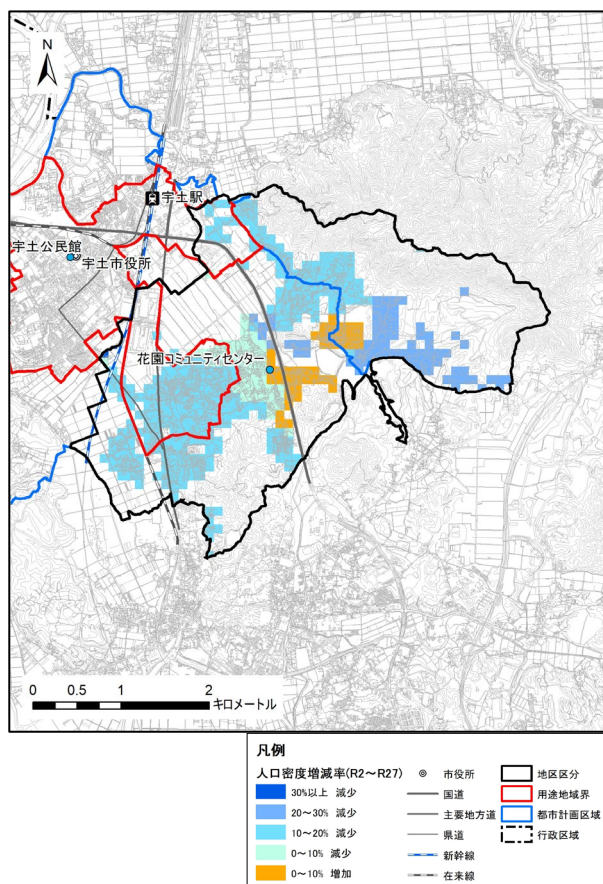
区域名	自然的土地利用				都市的土地利用					計 (ha)	
	農地 (ha)	森林 (ha)	荒地 (ha)	水面 (ha)	建物 用途 (ha)	道路 (ha)	鉄道 (ha)	その他 の用地 (ha)	ゴルフ 場(ha)		
花園地区	27.3%	29.8%	1.2%	2.0%	29.3%	1.3%	0.8%	4.1%	4.2%	100.0%	

【人口推計 (R2-27 の増減率)】

	人口(人)			地域全体に 占める割合		人口密度(人/ha)	
	R2	R27	増減率	R2	R27	R2	R27
花園地区	10,208	8,897	-12.8%	100.0%	100.0%	9.0	7.8
用途地域	3,197	2,737	-14.4%	31.3%	30.8%	18.0	15.4
用途白地地域	5,344	4,705	-12.0%	52.4%	52.9%	9.7	8.5
都市計画区域外	1,667	1,455	-12.7%	16.3%	16.4%	4.1	3.6



資料：国土数値情報ダウンロードサービス



資料：国土交通省国土技術政策総合研究所

「将来人口・世帯予測ツール V3 (令和 2 年度国調対応版)」

【地区の魅力と課題（市民ワークショップの意見抜粋）】

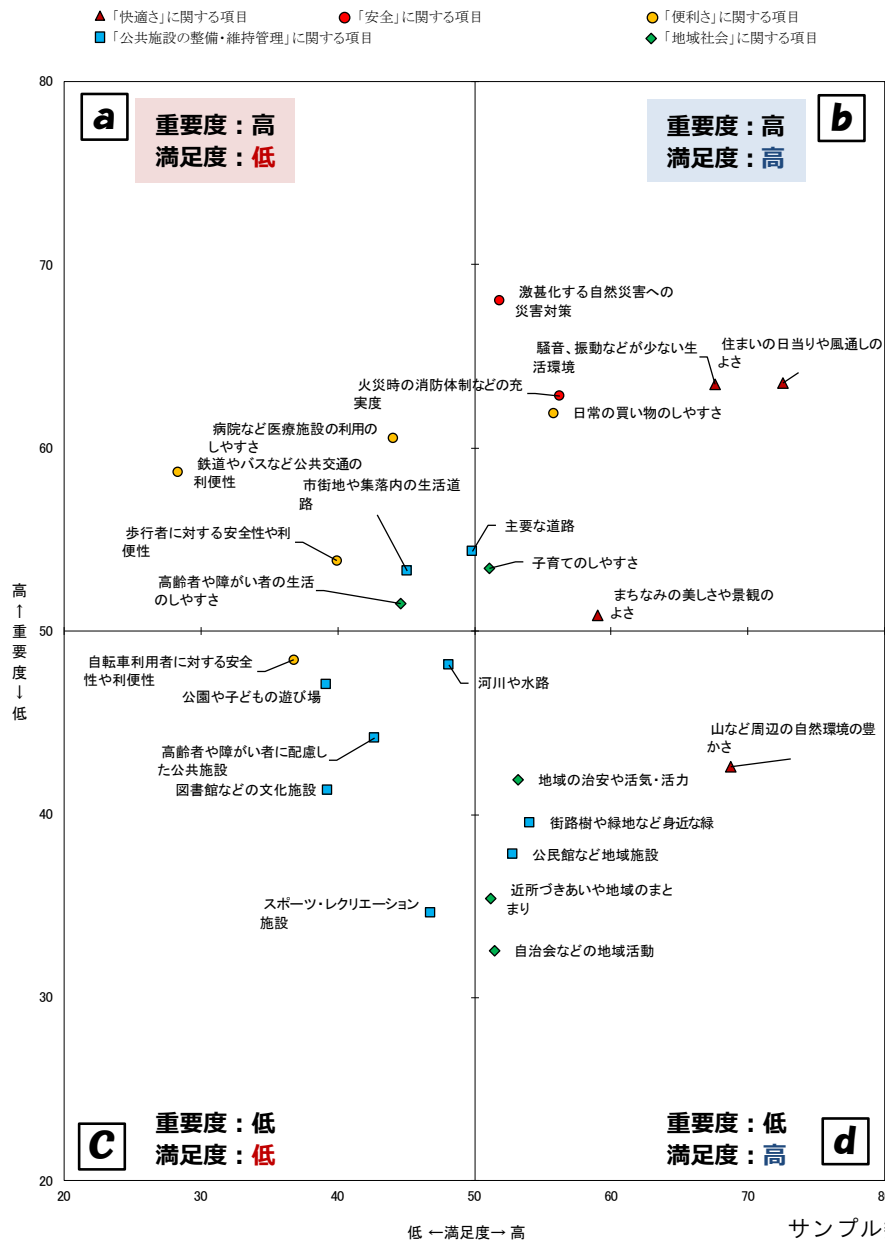
魅力	課題
・ 買い物できるところが備わっている ・ 住みやすい閑静な住宅街 ・ 交通の利便性が高い ・ 自然が多く美しい	・ 公共交通が不便な地域がある ・ 車がないと生活できない ・ 地域コミュニティの衰退

【20年後に向けた市民意向（市民ワークショップの意見抜粋）】

- ・ 安全安心なまち
- ・ 子育てしやすいまち
- ・ 地域活動が守られ、持続可能なまち

【市民意向（R5 市民アンケート結果より）】

・「安全」や「快適さ」、「便利さ」の項目の重要度が高い傾向にあり、「快適さ」については満足度が高い一方、**医療施設の利用のしやすさや道路交通環境の「便利さ」**については満足度が低い傾向にあります。



(2) まちづくりの課題

基本的課題	
土地利用	●商業機能の維持と利便性の高い市街地形成が求められています。 ●農業の維持・活性化に向けた取組の推進が求められています。 ●幹線道路の機能を生かした土地開発と地区の活性化が求められています。 ●空き家・空き地の利活用と地域活性化の推進が求められています。
都市施設整備	●市道ウキウキロード打越・岩熊線の歩道整備が求められています。 ●宇土・富合清掃センターの土地の有効利用が求められています。 ●立岡自然公園の機能充実と自然豊かな空間形成が求められています。 ●都市機能拠点との連携強化と交通基盤の整備が求められています。
景観形成 自然環境	●国道3号や県道14号八代鏡宇土線はメインロードとしての都市景観の形成が求められています。 ●集落景観の保全と地域の学習や交流の促進が求められています。 ●自然景観資源の保全と地域住民との協力体制の確立が求められています。 ●自然景観や公園の周知と案内板整備が求められています。
まちづくり 安全安心	●緊急輸送路の整備促進と沿線の耐震化等が求められています。 ●密集市街地のオープンスペース確保と避難路整備が求められています。 ●水害・土砂災害防止のための対策が求められています。 ●県管理河川の潤川の整備促進や市管理河川の曾畑川等の河川改修の推進が求められています。

(3) まちづくりの目標

身近な自然を感じるくらしが充実した住みよいまち

(4) まちづくりの方針

花園地区は、住宅市街地や集落地が多く、立岡自然公園や雁回山など自然環境を身近に感じることのできる地区であり、地域資源を生かした自然豊かな空間の形成を図ります。また、幹線道路沿いで、商業機能や産業流通機能の充実に向けた土地利用の推進や公共交通の充実など、生活利便性を高める取組を促進します。



〈立岡自然公園〉

■ 土地利用

- 既存商業機能が集積する県道 14 号八代鏡宇土線の沿道周辺では、商業機能の維持による保全を図りつつ、更に利便性の高い沿道市街地の形成を誘導します。
- 市道ウキウキロード打越・岩熊線沿線の都市機能の向上を図る上で開発の可能性を有する地域などについては、幹線道路の機能を生かし、産業経済の発展や地区の活性化に向けて、行政主導による土地開発の推進や土地利用の誘導を図ります。また、地区内のその他利便性の高い地域では、計画的な土地利用調整による開発等を誘導していくとともに、集落地の活力維持に必要な都市機能の確保に努めます。
- 農業の維持・活性化に向けて、無秩序な開発の抑制や担い手への農地集積・集約化等の取組について検討していきます。
- 空き家・空き地などの所有者を対象に、利活用に向けた制度の検討や周知などを行い、地域活性化を図ります。また、創業支援や新たな制度の検討や周知などを行い、地区の活性化を図ります。

■ 都市施設整備

- 広域連携軸である市道ウキウキロード打越・岩熊線においては、歩道整備等を推進します。
- 宇土・富合清掃センターについては、土地の有効利用を検討していきます。
- 立岡自然公園については、機能の充実と整備の促進を図るレクリエーション拠点として位置づけ、緑豊かな空間形成に努めます。
- 宇土地区の都市機能拠点との連携を促進し、移動の利便性を向上させるための交通基盤の整備に努めます。

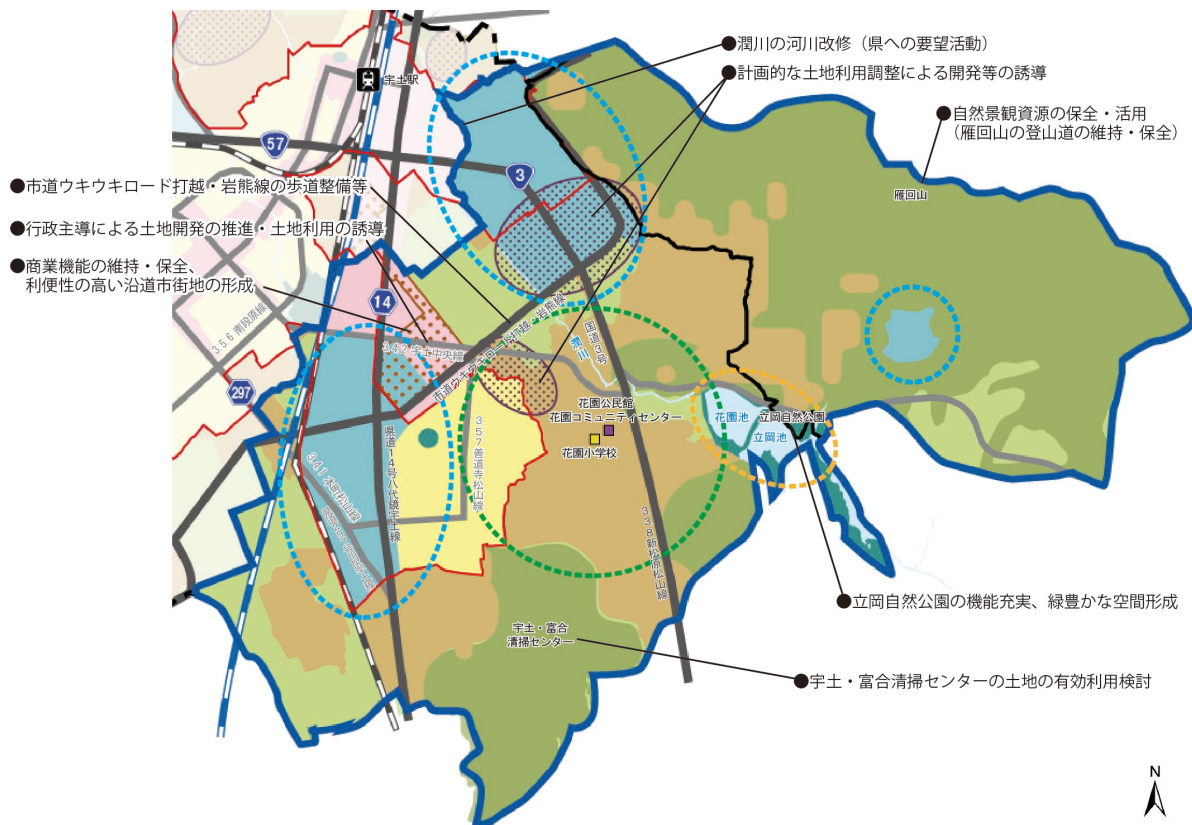
■ 自然環境・景観形成

- 国道 3 号や県道 14 号八代鏡宇土線の沿道は本市の「メインロード」として、積極的に都市景観形成を推進します。
- 産業や歴史、文化財、行事、祭などによって形成された集落景観は、市民に安心感を与えるとともに、地域への誇りを育み、地域の学習や交流の促進に寄与するため、その保全に努めます。
- 地区の優良農地や河川等は、貴重な景観資源であるとともに、防災面においても重要な役割を持っているため、各種法規制との連携のもと保全を進め、景観形成の維持に努めます。また、地域住民とも協力しながらの保管理体制を整え、自然環境や景観の保全を図ります。
- 雁回山をはじめとする山林は、自然環境や景観の保全を図るべき貴重な自然景観資源として捉え、保全・活用を図ります。また、雁回山の登山道については、近隣自治体と連携し保全による維持に努めます。
- 自然景観を広く周知するために、地区の景観に配慮した案内板の整備等を推進します。また、自然景観や観光資源の活用を推進するにあたり、地域住民の生活環境への配慮や観光客の観光体験等に悪影響のないよう、適切な施設管理や誘導等を図ります。

■ 安全安心まちづくり

- 国道 3 号、県道 14 号八代鏡宇土線を災害時の物資輸送のための緊急輸送路として位置づけ、ライフラインとしての整備を推進します。また、緊急輸送路沿道については、建築物や道路構造物の耐震対策を講じるとともに機能促進に努めます。
- 住宅地における密集市街地については、オープンスペースの確保等を推進し、防災活動の円滑化や避難路等の整備に努めます。
- 水害、土砂災害防止のため、保水機能や土砂流出抑制を有する山林等の保全を図ります。
- 県管理河川である潤川については、河川改修の早期完了に向けた要望活動に努め、治水対策の推進を図るとともに、曾畑川をはじめ地区を流れる市管理河川については河川改修を推進します。

■地区整備方針図（花園地区）



凡例

【土地利用】

- 商業・業務地
- 沿道市街地
- 産業振興地
- 住宅市街地
- 集落地
- 農地
- 公園・緑地
- 山林
- 河川・海岸
- 土地利用検討エリア
- 土地利用調整エリア

【基盤情報】

- 幹線道路
- その他道路
- 高規格道路
- 九州新幹線
- 鉄道
- 駅
- IC
- 庁舎
- 都市公園
- 小学校・中学校・高等学校
- 生涯学習施設・公民館・文化施設・体育施設
- 都市計画区域
- 用途地域
- 行政区
- 地区境界
- 都市機能拠点
- 生活居住拠点
- 産業振興拠点
- レクリエーション拠点

【地区全体】

- 農業の維持・活性化（無秩序な開発の抑制・担い手への農地集積・集約化等）
- 空き家・空き地などの利活用に向けた制度の検討・周知、創業支援や新たな制度の検討・周知
- 宇土地区の都市機能拠点との連携（交通基盤整備）
- 積極的な都市景観形成
- 産業や歴史等によって形成された集落景観の保全
- 山林・優良農地・河川等の環境保全・景観形成、保全管理体制の整備
- 景観に配慮した案内板の整備、適切な施設管理や誘導
- 緊急搬送路（国道3号、県道14号八代鏡宇土線）の整備、耐震対策と機能促進
- 密集市街地の防災活動の円滑化や避難路等の整備（オープンスペースの確保等）
- 保水機能や土砂流出抑制を有する山林等の保全
- 市管理河川の河川改修

3. 轟地区

(1) 地区の現況

- 轟地区は、東部エリアに位置する約 900ha の地区です。地区には市管理河川である飯塚川や塩田川が流れており、地区西部に森林が、東部には平地が広がっています。
- 農地が多く広がり、東部の宇土地区側、西部の白山の麓に住宅が集積しています。
- 人口の増減の見通しをみると、全域で減少が見込まれ、特に地区中央や南東、北西側の減少率が高い傾向にあります。

【面積・割合】

	面積	割合
轟地区	903.6	100.0%
用途地域	19.9	2.2%
用途白地地域	466.6	51.6%
都市計画区域外	417.1	46.2%

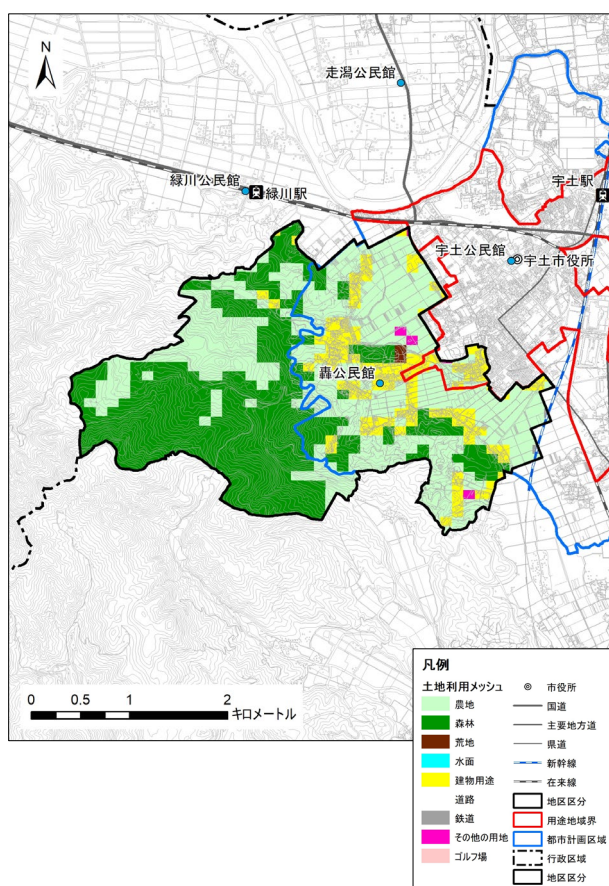
※面積は行政区をベースに GIS 集計による図上面積

【土地利用の状況】

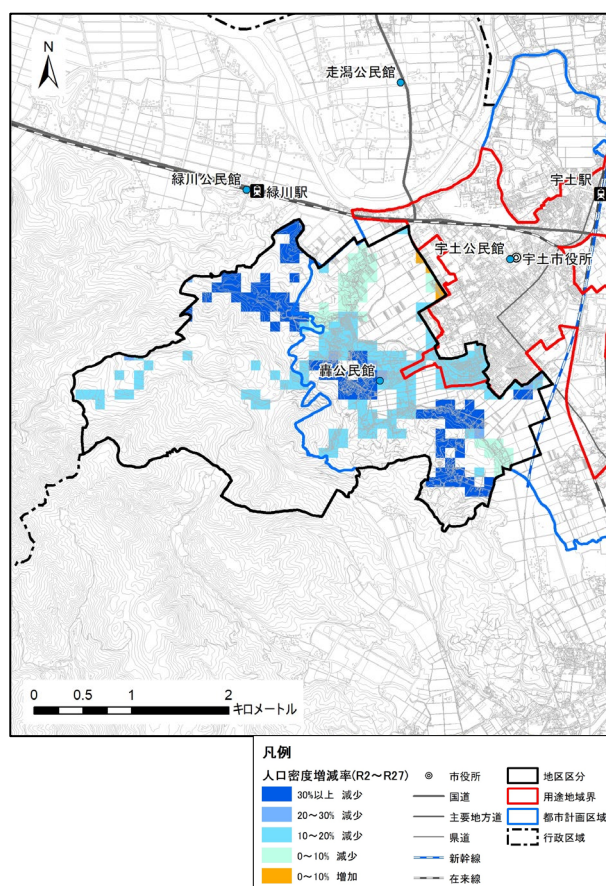
区域名	自然的土地利用				都市的土地利用					計 (ha)
	農地 (ha)	森林 (ha)	荒地 (ha)	水面 (ha)	建物 用途 (ha)	道路 (ha)	鉄道 (ha)	その他 の用地 (ha)	ゴルフ 場(ha)	
轟地区	45.6	41.6	0.3	0.0	12.0	0.0	0.1	0.4	0.0	100.0

【人口推計 (R2-27 の増減率)】

	人口(人)			地域全体に 占める割合		人口密度(人/ha)	
	R2	R27	増減率	R2	R27	R2	R27
轟地区	3,172	2,580	-18.7%	100.0%	100.0%	3.7	3.0
用途地域	521	424	-18.6%	16.4%	16.4%	25.8	21.0
用途白地地域	2,521	2,066	-18.0%	79.5%	80.1%	6.0	4.9
都市計画区域外	130	90	-30.8%	4.1%	3.5%	0.3	0.2



資料：国土数値情報ダウンロードサービス



資料：国土交通省国土技術政策総合研究所

「将来人口・世帯予測ツール V3 (令和 2 年度国調対応版)」

【地区の魅力と課題（市民ワークショップの意見抜粋）】

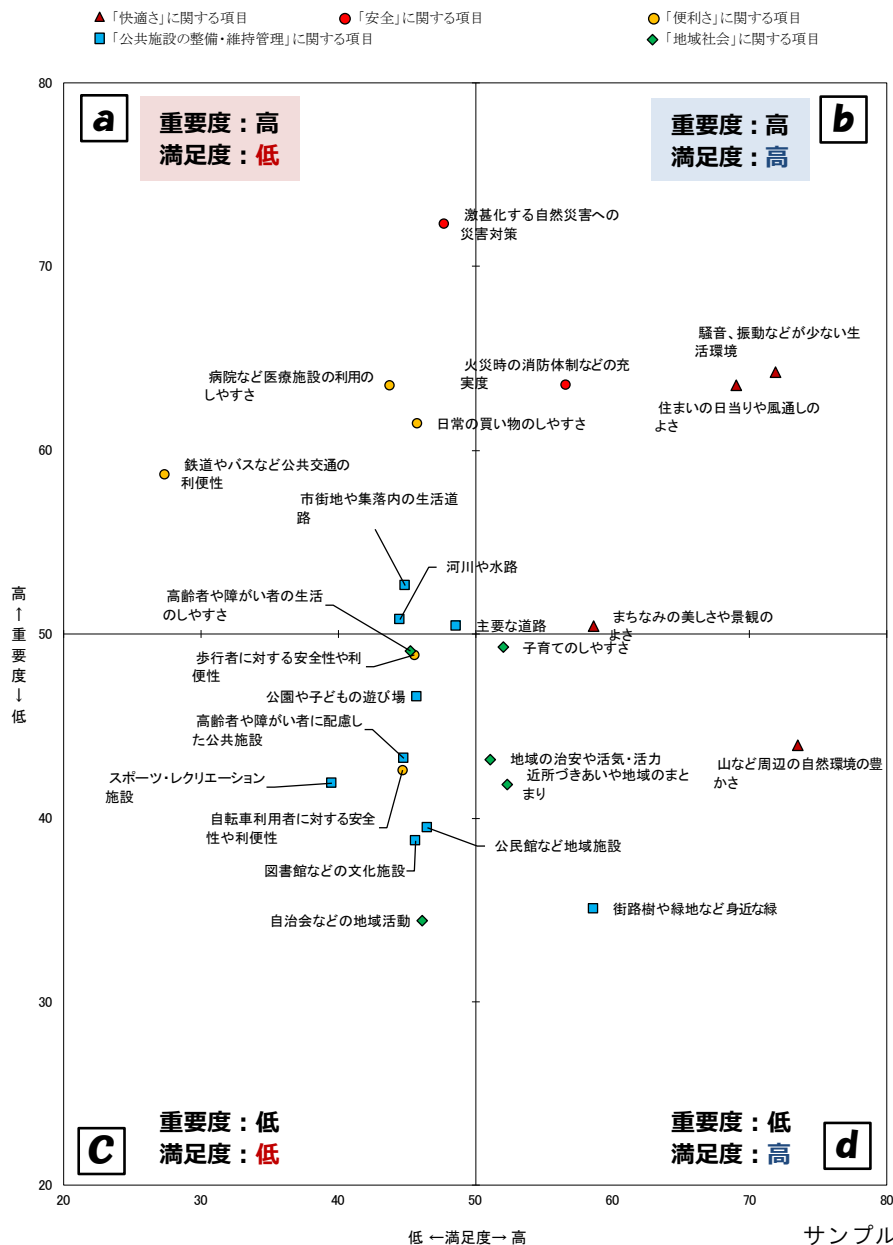
魅力	課題
・歴史的文化財が多い ・自然が豊か（轟水源、白山、つつじ等） ・つつじヶ丘農村公園がある	・観光地周辺の環境悪化（路上駐車等） ・子ども達の集う場が少ない ・遊具の老朽化 ・水害に弱い（飯塚川流域）

【20年後に向けた市民意向（市民ワークショップの意見抜粋）】

- ・歴史文化、自然を大切にするまち
- ・大人も子どもも来訪者も快適なまち
- ・水害に強いまち

【市民意向（R5 市民アンケート結果より）】

- ・「安全」や「快適さ」、「便利さ」の項目の重要度が高い傾向にあり、「快適さ」については満足度が高い一方、「便利さ」については満足度が低い傾向にあります。



(2) まちづくりの課題

基本的課題	
土地利用	●計画的な土地地区画整理事業や地区計画の推進が求められています。 ●農業の維持・活性化に向けた取組の推進が求められています。 ●史跡や大太鼓収蔵館などの活用と余暇空間の提供が求められています。 ●空き家・空き地の利活用と地域活性化の推進が求められています。
都市施設整備	●都市計画道路の未整備区間の早期供用開始が求められています。 ●つつじヶ丘農村公園の機能充実と子育て世帯向けの施設整備が求められています。 ●轟水源一帯の整備・保全が求められています。 ●都市機能拠点との連携強化と交通基盤の整備が求められています。
景観形成 自然環境	●集落景観の保全と地域の学習や交流の促進が求められています。 ●自然景観資源の保全と地域住民との協力体制の確立が求められています。 ●自然景観や史跡の周知と案内板整備が求められています。
まちづくり 安全安心	●水害・土砂災害防止のための対策が求められています。 ●市管理河川の飯塚川等の河川改修の推進が求められています。

(3) まちづくりの目標

自然と歴史が調和した住みよいまち

(4) まちづくりの方針

轟地区は、轟泉自然公園や国指定史跡などが集落地内に点在する地区であり、地域資源を生かした空間形成を図ります。また、交通利便性の高い幹線道路沿いで、計画的な土地利用やつつじヶ丘農村公園の機能の充実などを行います。



〈大太鼓収蔵館〉

■ 土地利用

- 既存市街地との連続性のある都市計画道路北段原線周辺では、土地区画整理事業や地区計画等の導入を積極的に推進するなど、計画的な整備・誘導を図ります。
- 農業の維持・活性化に向けて、無秩序な開発の抑制や担い手への農地集積や集約化等の取組について検討していきます。
- 轟水源や国指定史跡「宇土城跡」、国指定史跡「轟貝塚」、大太鼓収蔵館などを活用し、市民が有意義な余暇を過ごせる空間を提供します。
- 空き家・空き地などの所有者を対象に、利活用に向けた制度の検討や周知などを行い、地域活性化を図ります。また、創業支援や新たな制度の検討や周知などを行い、地区の活性化を図ります。

■ 都市施設整備

- 都市計画道路北段原線の未整備区間については、早期供用開始に向け整備を推進します。
- つつじヶ丘農村公園はレクリエーション拠点として位置づけられ、適切な維持管理を行うとともに、子育て世帯などが利用しやすい空間形成に向けた機能の充実や施設整備の促進を図り、さらに管理棟の活用に向けた検討も行います。
- 轟泉自然公園内の轟水源は、貴重な自然財産であり、水源前広場等のオープンスペースと併せて積極的な整備・保全に努めます。
- 宇土地区の都市機能拠点との連携を促進し、移動の利便性を向上させるための交通基盤の整備に努めます。

■ 自然環境・景観形成

- 地区の山林や優良農地、河川等は、貴重な景観資源であるとともに、防災面においても重要な役割を持っているため、各種法規制との連携のもと保全を進め、景観形成の維持に努めます。また、地域住民とも協力しながらの保全管理体制を整え、自然環境・景観保全を図ります。
- 産業や歴史、文化財、行事、祭などによって形成された集落景観は、市民に安心感を与えるとともに、地域への誇りを育み、地域の学習や交流の促進に寄与するため、その保全に努めます。
- 自然景観や史跡、文化財等を広く周知するために、地域の景観に配慮した案内板の整備等を推進します。

■ 安全安心まちづくり

- 水害、土砂災害防止のため、保水機能や土砂流出抑制を有する山林等の保全を図ります。
- 飯塚川をはじめ地区を流れる市管理河川については河川改修等を推進します。

■地区整備方針図（轟地区）



凡 例

【土地利用】

- 商業・業務地
- 沿道市街地
- 産業振興地
- 住宅市街地
- 集落地
- 農地
- 公園・緑地
- 山林
- 河川・海岸
- 土地利用検討エリア
- 土地利用調整エリア

【基盤情報】

- 幹線道路
- その他道路
- 高規格道路
- 九州新幹線
- 鉄道
- 駅
- IC
- 庁舎
- 都市公園
- 小学校・中学校・高等学校
- 生涯学習施設・公民館・文化施設・体育施設
- 都市計画区域
- 用途地域
- 行政区域
- 地区境界
- 都市機能拠点
- 生活居住拠点
- 産業振興拠点
- レクリエーション拠点

【地区全体】

- 農業の維持・活性化（無秩序な開発の抑制・担い手への農地集積・集約化等）
- 空き家・空き地などの利活用に向けた制度の検討・周知、創業支援や新たな制度の検討・周知
- 宇土地区の都市機能拠点との連携促進（交通基盤整備）
- 山林・優良農地・河川等の環境保全・景観形成、保全管理体制の整備
- 産業や歴史等によって形成された集落景観の保全
- 景観に配慮した案内板の整備、適切な施設管理や誘導
- 保水機能や土砂流出抑制を有する山林等の保全
- 市管理河川の河川改修

4. 走潟地区

(1) 地区の現況

- 走潟地区は、東部エリアに位置する約 400ha の地区です。地区外周に国管理河川である緑川や浜戸川が流れており、地区全体にわたって平地が広がっています。
- 本地区は農地が全体の約 6 割を占めており、集落が点在しています。
- 国道 501 号が南北に通っており、本市と熊本市を結ぶ都市の骨格的な道路のひとつとなっています。
- 人口の増減の見通しをみると、全域で減少が見込まれ、減少率に差がありません。

【面積・割合】

	面積	割合
走潟地区	403.1	100.0%
用途地域	0.0	0.0%
用途白地地域	0.0	0.0%
都市計画区域外	403.1	100.0%

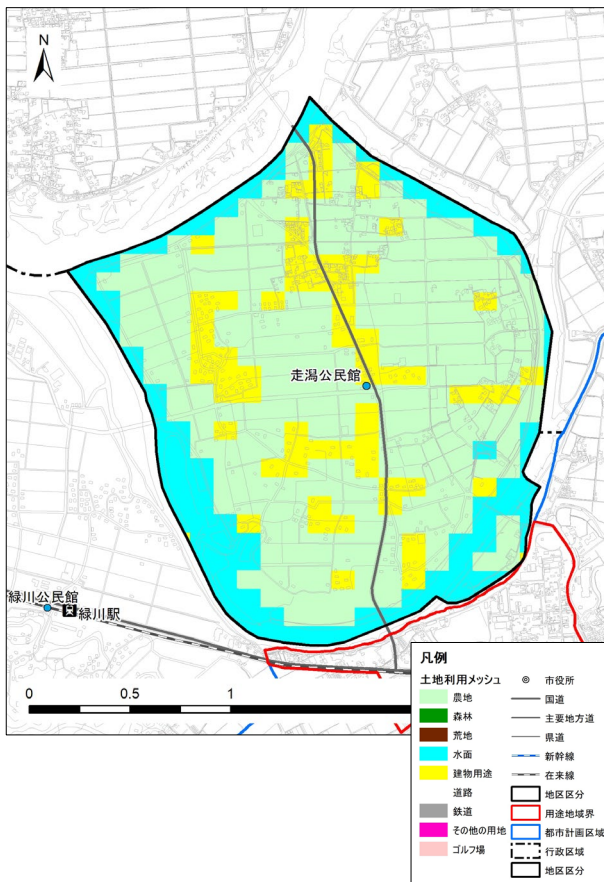
※面積は行政区をベースに GIS 集計による図上面積

【土地利用の状況】

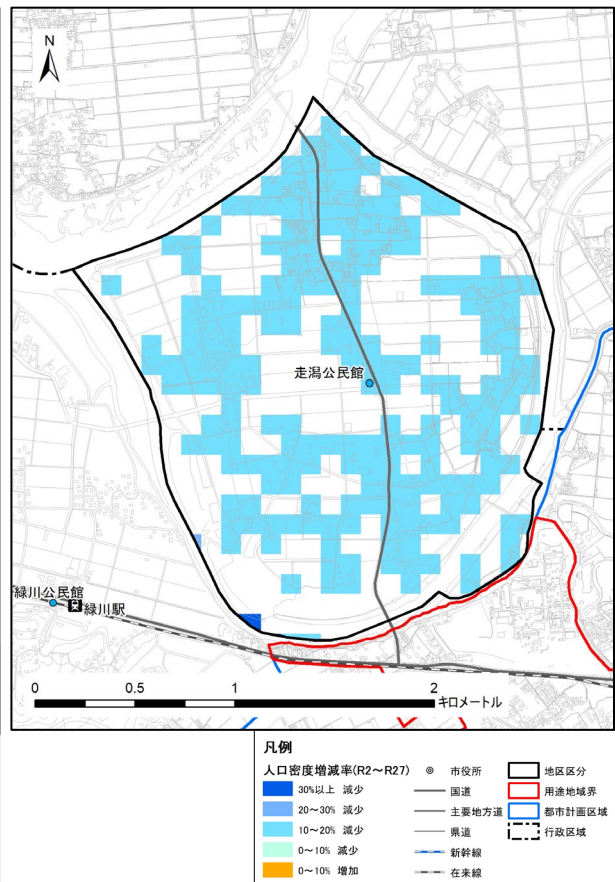
区域名	自然的土地利用				都市的土地利用					計 (ha)
	農地 (ha)	森林 (ha)	荒地 (ha)	水面 (ha)	建物 用途 (ha)	道路 (ha)	鉄道 (ha)	その他 の用地 (ha)	ゴルフ 場(ha)	
走潟地区	64.4%	0.0%	0.0%	18.3%	17.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

【人口推計 (R2-27 の増減率)】

	人口(人)			地域全体に 占める割合		人口密度(人/ha)	
	R2	R27	増減率	R2	R27	R2	R27
走潟地区	1,935	1,557	-19.5%	100.0%	100.0%	4.7	3.8
用途地域	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0	0.0
用途白地地域	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0	0.0
都市計画区域外	1,935	1,557	-19.5%	100.0%	100.0%	4.7	3.8



資料：国土数値情報ダウンロードサービス



資料：国土交通省国土技術政策総合研究所

「将来人口・世帯予測ツール V3 (令和 2 年度国調対応版)」

【地区の魅力と課題（市民ワークショップの意見抜粋）】

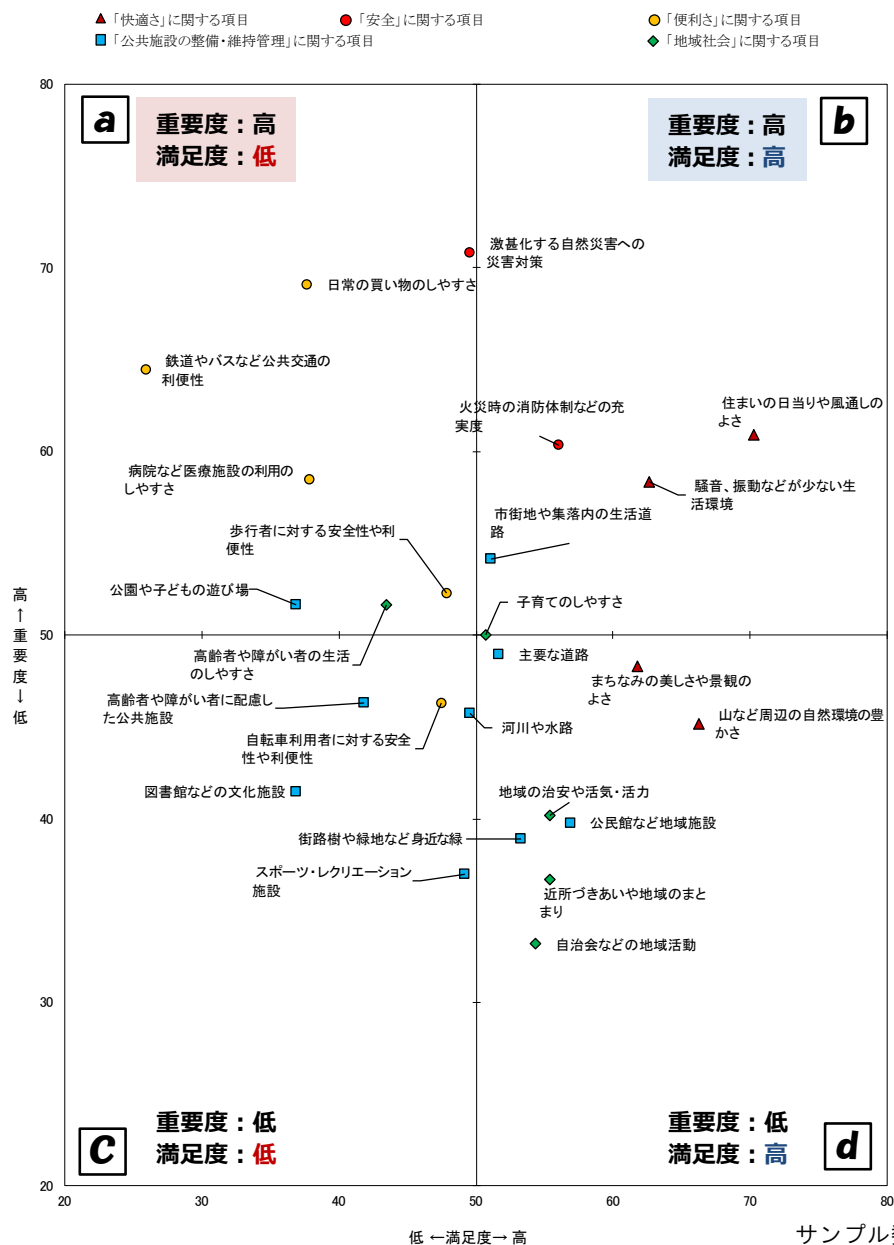
魅力	課題
・ 交通の利便性が高い ・ 地域コミュニティが形成されている ・ 自然豊か（田園風景等）	・ 買い物が不便 ・ 医療、福祉施設がない ・ 空き家の増加 ・ 公園等遊び場が少ない ・ 水害時の避難場所の不足

【20年後に向けた市民意向（市民ワークショップの意見抜粋）】

- ・ 地区の繋がりが強く、災害に強いまち
- ・ 利便性の高い、快適な暮らしができるまち
- ・ 子育て世代や若者に選ばれるまち

【市民意向（R5 市民アンケート結果より）】

- ・ 「安全」や「便利さ」、「快適さ」の項目の重要度が高い傾向にあり、「快適さ」については満足度が高い一方、「便利さ」については満足度が低い傾向にあります。



(2) まちづくりの課題

基本的課題	
土地利用	●「宇土走潟地区かわまちづくり」による地区のにぎわい創出が求められています。 ●農業の維持・活性化に向けた取組の推進が求められています。 ●空き家・空き地の利活用と地域活性化の推進が求められています。
都市施設整備	●緑川旧河道での交流拠点の整備推進が求められています。 ●都市機能拠点との連携強化と交通基盤の整備が求められています。
景観形成 自然環境	●集落景観の保全と地域の学習や交流の促進が求められています。 ●自然景観資源の保全と地域住民との協力体制の確立が求められています。
まちづくり 安全安心	●緑川や浜戸川の高潮対策の早期整備が求められています。 ●水害に備えた避難体制の確保や広場整備が求められています。

(3) まちづくりの目標

田園に囲まれた多様な交流が生まれるまち

(4) まちづくりの方針

走潟地区は、広大な農地と小さな集落地が点在する地区であり、農業の維持・活性化や空き地・空き家の解消に向けた取組を推進します。また、国管理河川緑川の旧河道では、宇土走潟地区かわまちづくりによる交流空間の形成や避難地の整備などを行います。



〈走潟小学校と農地・集落地〉

■ 土地利用

- 旧河道の水際における親水環境の形成や市内外の人たちが交流のできる拠点の創出を目指した「宇土走潟地区かわまちづくり」を推進し、地区のにぎわい創出を図ります。
- 農業の維持や更なる活性化に向け、無秩序な開発の抑制や農地の集積や集約化等の取組を推進し農業生産性機能の高度化を図ります。
- 空き家・空き地などの所有者を対象に、利活用に向けた制度の検討や周知などを行い、地域活性化を図ります。また、創業支援や新たな制度の検討や周知などを行い、地区の活性化を図ります。

■ 都市施設整備

- 国管理河川である緑川の旧河道では、親水護岸や多目的広場、アーチェリー場等の整備を推進します。
- 宇土地区の都市機能拠点との連携を促進し、移動の利便性を向上させるための交通基盤の整備に努めます。

■ 自然環境・景観形成

- 地区の優良農地や河川等は、貴重な景観資源であるとともに、防災面においても重要な役割を持っているため、各種法規制との連携のもと保全を進め、景観形成の維持に努めます。また、地域住民とも協力しながらの保全管理体制を整え、自然環境や景観の保全を図ります。
- 産業や歴史、文化財、行事、祭などによって形成された集落景観は、市民に安心感を与えると同時に、地域への誇りを育み、地域の学習や交流の促進に寄与するため、その保全に努めます。

■ 安全安心まちづくり

- 国管理河川である緑川や浜戸川については、堤防の嵩上げの早期完了に向け要望活動に努め、高潮対策の推進を図ります。また、水害時の備えとして、走潟小学校屋上への避難体制の確保をはじめ、「宇土走潟地区かわまちづくり」による広場整備による避難場所の確保などを推進します。

■地区整備方針図（走潟地区）



凡 例

【土地利用】

- 商業・業務地
- 沿道市街地
- 産業振興地
- 住宅市街地
- 集落地
- 農地
- 公園・緑地
- 山林
- 河川・海岸
- 土地利用検討エリア
- 土地利用調整エリア

【基盤情報】

- 幹線道路
- その他道路
- 高規格道路
- 九州新幹線
- 鉄道
- 駅
- IC
- 庁舎
- 都市公園
- 小学校・中学校・高等学校
- 生涯学習施設・公民館・文化施設・体育施設
- 都市計画区域
- 用途地域
- 行政区
- 地区境界
- 都市機能拠点
- 生活居住拠点
- 産業振興拠点
- レジャー拠点

【地区全体】

- 農業の維持・活性化（無秩序な開発の抑制・農業生産性機能の高度化）
- 空き家・空き地などの利活用に向けた制度の検討・周知、創業支援や新たな制度の検討・周知
- 宇土地区の都市機能拠点との連携促進（交通基盤整備）
- 優良農地・河川等の環境保全・景観形成、保管理体制の整備
- 産業や歴史等によって形成された集落景観の保全
- 緑川及び浜戸川の堤防の嵩上（国への要望活動）

5. 緑川地区

(1) 地区の現況

- 緑川地区は、西部エリアに位置する約 810ha の地区です。地区北側に国管理河川である緑川、南側に市管理河川である飯塚川が流れており、地区北側に平地、南側に森林が広がっています。
- 本地区は農地が全体の約 5 割を占めており、集落が点在しています。
- 東側には JR 緑川駅があるほか、国道 57 号が東西に通る、熊本・天草間を結ぶ骨格的な道路となっています。また、高規格道路「熊本天草幹線道路」や城塚 IC（仮称）の整備が進められています。
- 人口の増減の見通しをみると、全域で減少が見込まれ、特に JR 緑川駅周辺や地区北西側の減少率が高い傾向にあります。

【面積・割合】

	面積	割合
緑川地区	814.8	100.0%
用途地域	0.6	0.1%
用途白地地域	0.2	0.0%
都市計画区域外	814.0	99.9%

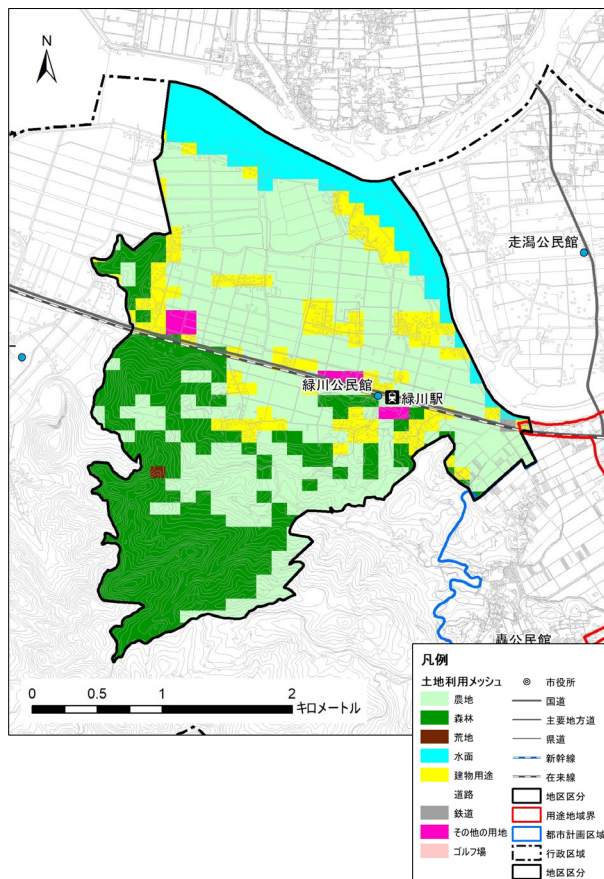
※面積は行政区をベースに GIS 集計による図上面積

【土地利用の状況】

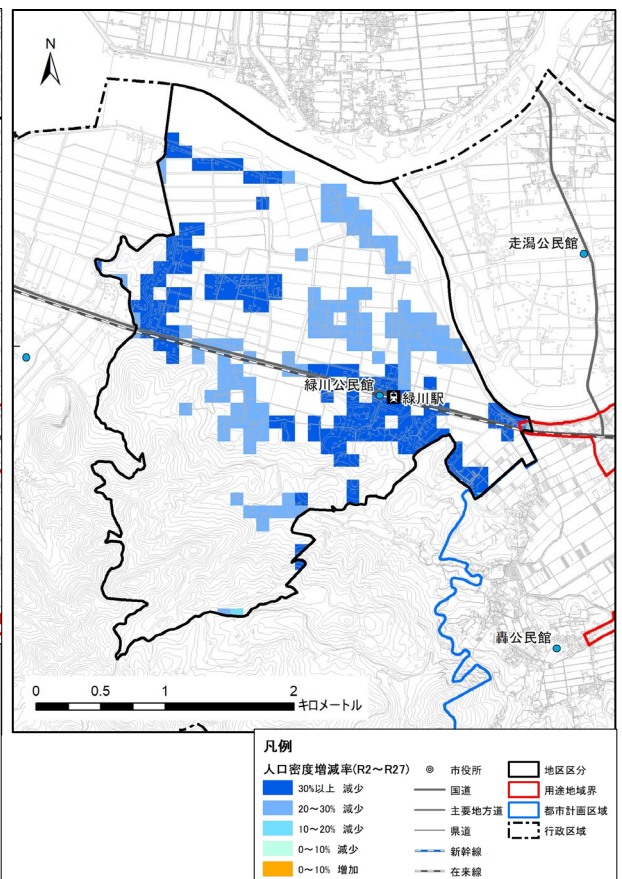
区域名	自然的土地利用				都市的土地利用					計 (ha)
	農地 (ha)	森林 (ha)	荒地 (ha)	水面 (ha)	建物 用途 (ha)	道路 (ha)	鉄道 (ha)	その他 の用地 (ha)	ゴルフ 場(ha)	
緑川地区	50.1%	27.0%	0.1%	9.7%	11.8%	0.0%	0.1%	1.2%	0.0%	100.0%

【人口推計（R2-27 の増減率）】

	人口(人)			地域全体に占める割合		人口密度(人/ha)	
	R2	R27	増減率	R2	R27	R2	R27
緑川地区	1,796	1,262	-29.7%	100.0%	100.0%	2.1	1.5
用途地域	5	3	-40.0%	0.3%	0.2%	8.3	5.0
用途白地地域	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0	0.0
都市計画区域外	1,791	1,259	-29.7%	99.7%	99.8%	2.1	1.5



資料：国土数値情報ダウンロードサービス



資料：国土交通省国土技術政策総合研究所

「将来人口・世帯予測ツール V3（令和 2 年度国調対応版）」

【地区の魅力と課題（市民ワークショップの意見抜粋）】

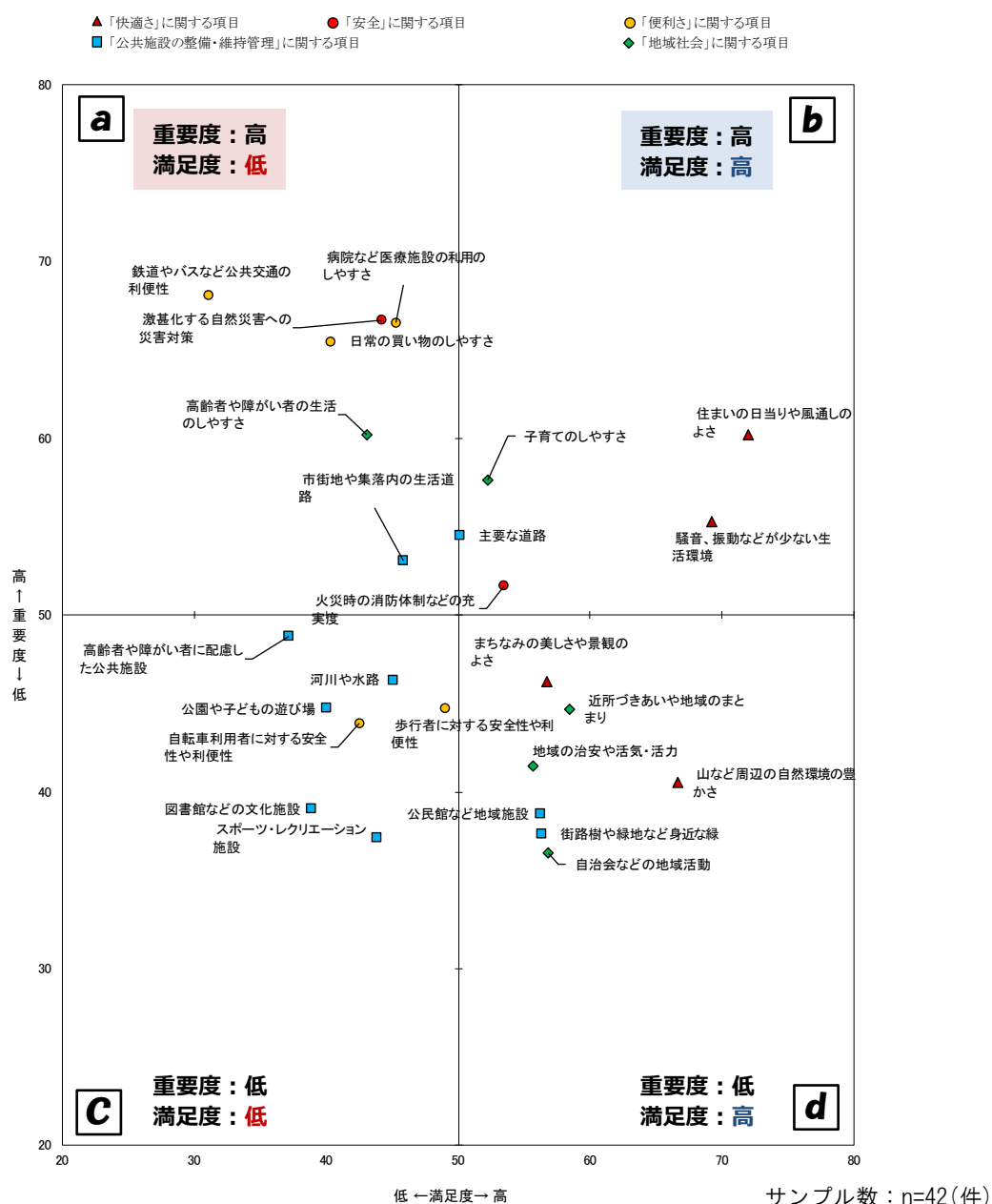
魅力	課題
・高規格道路「熊本天草幹線道路」が開通すれば更なるアクセス性の向上が期待できる ・自然が豊か	・法規制により住宅が建てられない ・公共交通が不便 ・買い物できる場所がない

【20年後に向けた市民意向（市民ワークショップの意見抜粋）】

・熊本市や宇土地区、天草方面までどこでも行きやすい立地環境を生かしたまち ・ベッドタウンとしての可能性があるまち ・自然が豊かなまち
--

【市民意向（R5 市民アンケート結果より）】

・「便利さ」や「安全」、「地域社会」、「快適さ」の項目の重要度が高い傾向にあり、「快適さ」については満足度が高い一方、「便利さ」については満足度が低い傾向にあります。



(2) まちづくりの課題

基本的課題	
土地利用	● 城塚 IC（仮称）周辺の交通利便性を生かした優良企業の受け入れのための開発等が求められています。 ● 農業・水産業の維持・活性化に向けた取組の推進が求められています。 ● 空き家・空き地の利活用と地域活性化の推進が求められています。
都市施設整備	● 高規格道路「熊本天草幹線道路」の早期整備と交通体系の強化が求められています。 ● 都市機能拠点との連携強化と交通基盤の整備が求められています。 ● 踏切周辺の道路改良と安全確保が求められています。
景観形成 自然環境	● 集落景観の保全と地域の学習や交流の促進が求められています。 ● 自然景観資源の保全と地域住民との協力体制の確立が求められています。 ● 産業振興拠点の緑化推進と周辺環境への配慮が求められています。
まちづくり 安全安心	● 緑川や浜戸川の高潮対策の早期整備が求められています。 ● 水害・土砂災害防止のための対策が求められています。

(3) まちづくりの目標

自然環境・産業・生活が調和した住み続けたいまち

(4) まちづくりの方針

緑川地区は、点在する集落地や農地・森林といった豊富な自然環境、緑川工業団地をはじめとした産業流通機能を有する地区であり、交通利便性の向上や企業誘致に向けた土地利用の推進、自然環境の保全などを図ります。

また、高規格道路「熊本天草幹線道路」の城塚 IC（仮称）の早期整備に向けた要望活動に努めるとともに、アクセス性の向上を見据えた城塚 IC（仮称）周辺の土地利用の推進などを行います。



〈緑川工業団地〉

■ 土地利用

- 緑川工業団地南側や高規格道路「熊本天草幹線道路」の城塚 IC（仮称）周辺については、交通利便性の高さを生かし、今後優良企業の受け皿として、計画的な土地利用調整による開発等の誘導を図ります。
- 農業の維持・活性化に向けて、無秩序な開発の抑制や担い手への農地集積・集約化等の取組について検討していきます。
- 空き家・空き地などの所有者を対象に、利活用に向けた制度の検討や周知などを行い、地域活性化を図ります。また、創業支援や新たな制度の検討や周知などを行い、地区の活性化を図ります。

■ 都市施設整備

- 高規格道路「熊本天草幹線道路」については、早期供用開始に向けた要望活動に努め、広域的な交通体系の強化を図ります。
- 宇土地区の都市機能拠点との連携を促進し、移動の利便性を向上させるための交通基盤の整備に努めます。また、JR三角線（JR 緑川駅）や路線バスなどの公共交通相互の接続強化や待ち環境の整備など持続可能な地域公共交通に向けた見直しを行います。
- 国道 57 号沿いの各踏切周辺の道路環境の向上を推進するとともに、交差点や各踏切周辺の安全確保に向けた市道の道路改良を推進します。

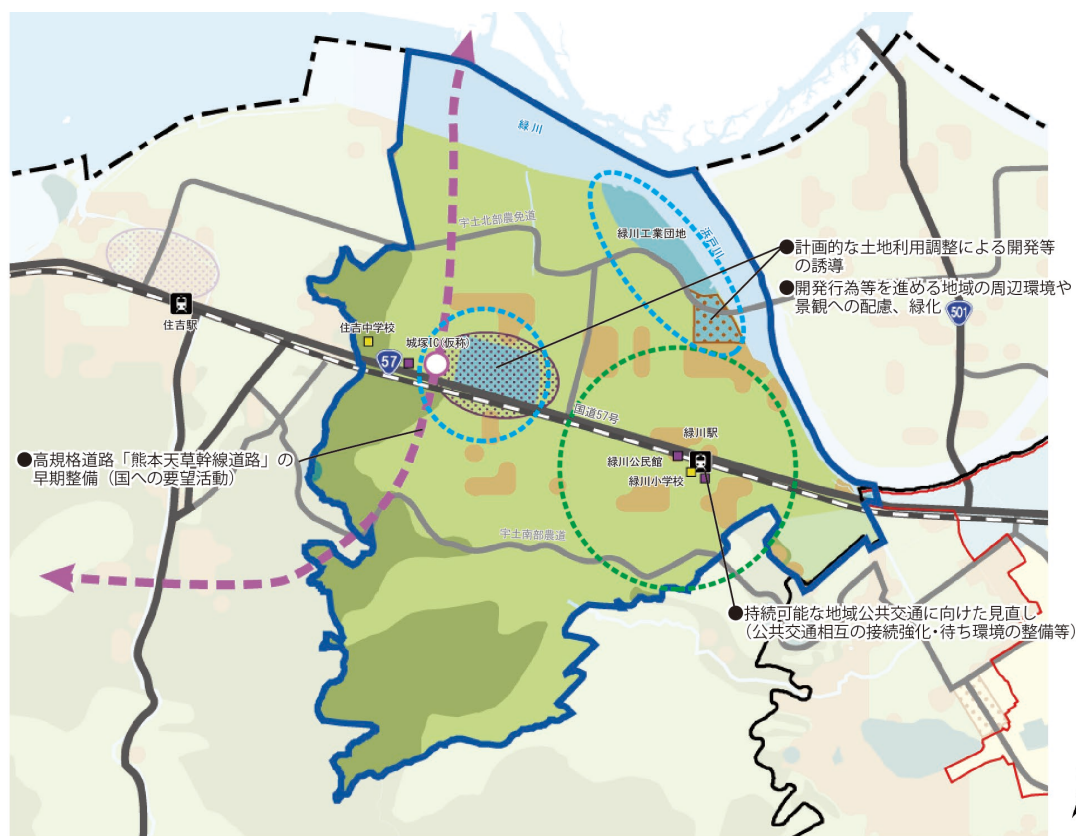
■ 自然環境・景観形成

- 地区の優良農地や河川等は、国道 57 号や JR 三角線から望める貴重な景観資源であるとともに、防災面においても重要な役割を持っているため、各種法規制との連携のもと保全を進め、景観形成の維持に努めます。また、地域住民とも協力しながらの保全管理体制を整え、自然環境や景観の保全を図ります。
- 産業や歴史、文化財、行事、祭などによって形成された集落景観は、市民に安心感を与えるとともに、地域への誇りを育み、地域の学習や交流の促進に寄与するため、その保全に努めます。
- 開発等を進める地域では、周辺環境や景観に配慮し、緑化等を推進します。

■ 安全安心まちづくり

- 水害、土砂災害防止のため、保水機能や土砂流出抑制を有する山林等の保全を図ります。
- 浸水想定区域にかかる集落地については、近接する高台に安全で昇り易く、短時間で避難できるよう避難路の整備を推進します。
- 国管理河川である緑川や浜戸川については、堤防の嵩上げの早期完了に向け要望活動に努め、高潮対策の推進を図ります。

■地区整備方針図（緑川地区）



凡 例

【土地利用】

- 商業・業務地
- 沿道市街地
- 産業振興地
- 住宅市街地
- 集落地
- 農地
- 公園・緑地
- 山林
- 河川・海岸
- 土地利用検討エリア
- 土地利用調整エリア

【基盤情報】

- 幹線道路
- その他道路
- 高規格道路
- 九州新幹線
- 鉄道
- 駅
- IC
- 庁舎
- 都市公園
- 小学校・中学校・高等学校
- 生涯学習施設・公民館・文化施設・体育施設
- 都市計画区域
- 用途地域
- 行政区域
- 地区境界
- 都市機能拠点
- 生活居住拠点
- 産業振興拠点
- レクリエーション拠点

【地区全体】

- 農業の維持・活性化（無秩序な開発の抑制・担い手への農地集積・集約化等）
- 空き家・空き地などの利活用に向けた制度の検討・周知、創業支援や新たな制度の検討・周知
- 宇土地区の都市機能拠点との連携促進（交通基盤整備）
- 国道 57 号沿いの各踏切周辺の道路改良（国への要望活動）、交差点や各踏切周辺の安全確保に向けた市道の道路改良の検討
- 優良農地・河川等の環境保全・景観形成、保全管理体制の整備
- 産業や歴史等によって形成された集落景観の保全
- 浸水想定区域にかかる集落地の避難路の整備
- 保水機能や土砂流出抑制を有する山林等の保全
- 緑川・浜戸川の堤防の嵩上げ（国への要望活動）

6. 網津地区

(1) 地区の現況

- 網津地区は、西部エリアに位置する約 1,500ha の地区です。有明海に面し、県管理河川である網津川が地区の南北に流れており、地区南側に森林、北側に平地が広がっています。
- 地区中央に網津支所が立地し、周辺に集落が点在しています。
- 中央には JR 住吉駅があるほか、国道 57 号が東西に通り、熊本・天草間を結ぶ骨格的な道路となっています。また、宇土南部農道や県道 58 号宇土不知火線の整備が進められています。
- 人口の増減の見通しをみると、全域で減少が見込まれ、特に国道 57 号沿いや地区南側の減少率が高い傾向にあります。

【面積・割合】

	面積	割合
網津地区	1496.0	100.0%
用途地域	0.0	0.0%
用途白地地域	0.0	0.0%
都市計画区域外	1496.0	100.0%

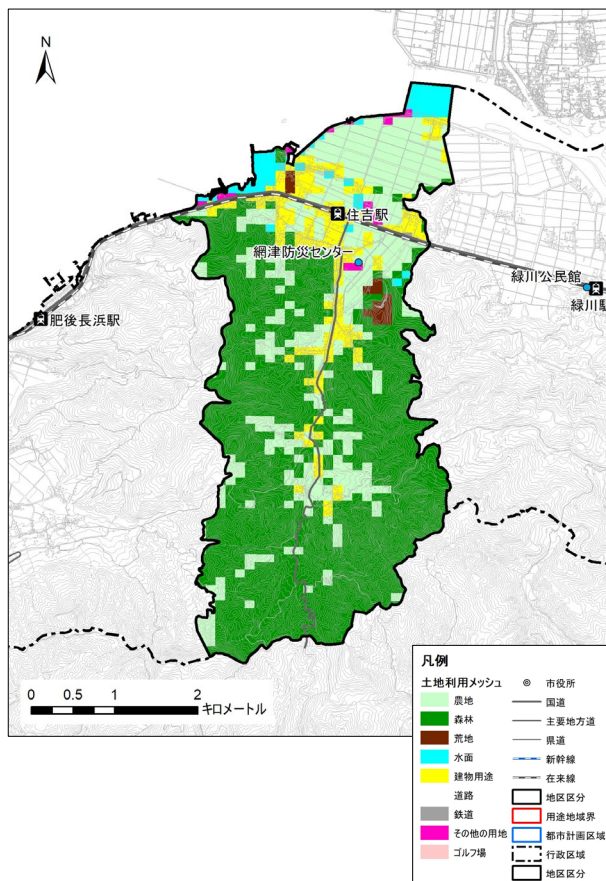
※面積は行政区をベースに GIS 集計による図上面積

【土地利用の状況】

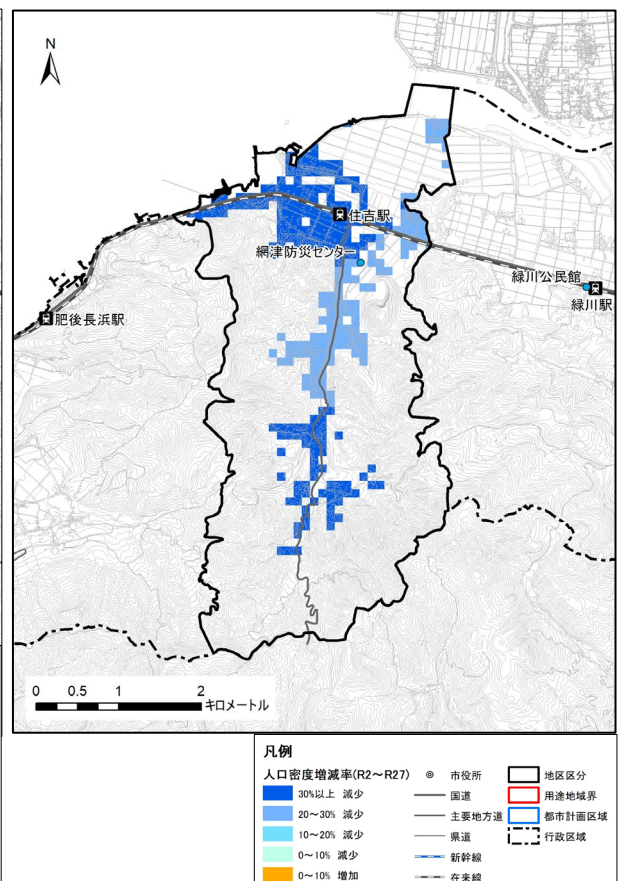
区域名	自然的土地利用				都市的土地利用					計 (ha)
	農地 (ha)	森林 (ha)	荒地 (ha)	水面 (ha)	建物 用途 (ha)	道路 (ha)	鉄道 (ha)	その他 の用地 (ha)	ゴルフ 場(ha)	
網津地区	25.1%	59.9%	1.0%	3.5%	9.4%	0.0%	0.2%	0.9%	0.0%	100.0%

【人口推計 (R2~27 の増減率)】

	人口(人)			地域全体に 占める割合		人口密度(人/ha)	
	R2	R27	増減率	R2	R27	R2	R27
網津地区	2,981	2,094	-29.8%	100.0%	100.0%	1.9	1.4
用途地域	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0	0.0
用途白地地域	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0	0.0
都市計画区域外	2,981	2,094	-29.8%	100.0%	100.0%	1.9	1.4



資料：国土数値情報ダウンロードサービス



資料：国土交通省国土技術政策総合研究所

「将来人口・世帯予測ツール V3 (令和 2 年国調対応版)」

【地区の魅力と課題（市民ワークショップの意見抜粋）】

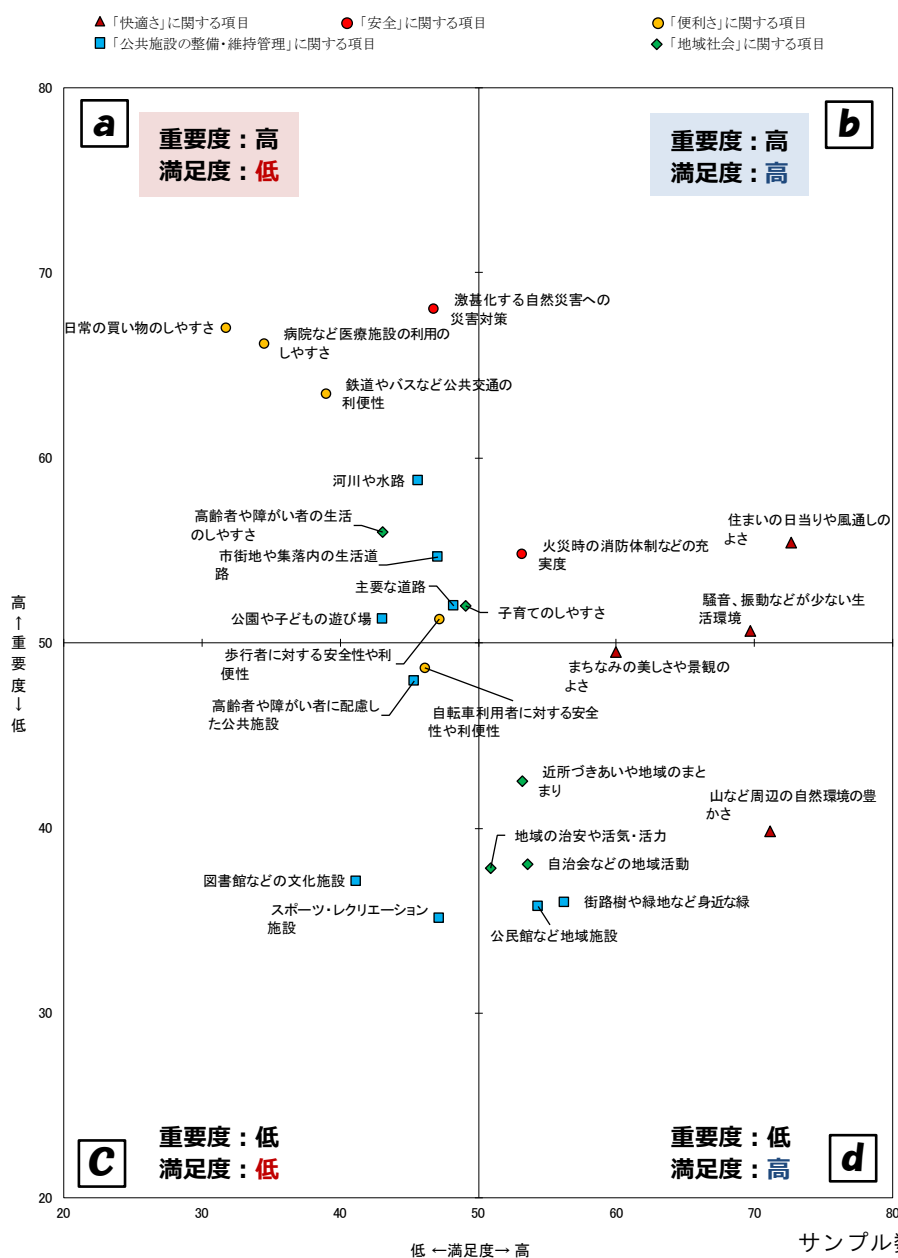
魅力	課題
・観光地の注目度の高さ（海岸公園・自然公園） ・歴史、自然、景観資源が豊富 ・地域活動に積極的な人が多い	・空き家空き店舗が目立つ ・買い物が不便 ・水害に不安がある

【20年後に向けた市民意向（市民ワークショップの意見抜粋）】

- ・自然環境、資源が豊かなまち
- ・水害の不安がない暮らしを実現できるまち
- ・地区の繋がりが強いまち

【市民意向（R5 市民アンケート結果より）】

- ・「安全」や「便利さ」、「公共施設の整備・維持管理」の項目の重要度が高い傾向にあり、特に「便利さ」については満足度が低い傾向にあります。



(2) まちづくりの課題

基本的課題	
土地利用	●JR 住吉駅周辺の計画的な土地利用と都市機能の確保が求められています。 ●農業や水産業の維持・活性化に向けた取組の推進が求められています。また、住吉地区港湾浚渫土受入場（仮称）の埋め立て後の土地利用の検討も求められています。 ●空き家・空き地の利活用と地域活性化の推進が求められています。
都市施設整備	●地区の山間部を通る高規格道路「熊本天草幹線道路」や宇土南部農道、新たな市道等の早期整備が求められています。 ●都市機能拠点との連携強化と交通基盤の整備が求められています。 ●網津上水道配水池の改修による水の安定供給が求められています。
景観形成 自然環境	●集落景観の保全と地域の学習や交流の促進が求められています。 ●自然景観資源の保全と地域住民との協力体制の確立が求められています。 ●観光資源である海岸線の維持が求められています。
まちづくり 安全安心	●水害・土砂災害防止のための対策が求められています。 ●県管理河川の網津川等の河川改修の推進が求められています。

(3) まちづくりの目標

恵まれた自然環境でつながる多世代交流の安心なまち

(4) まちづくりの方針

網津地区は、海岸沿いの公園や豊富な農水産物などを有する地区であり、農水産業の維持・活性化や土地利用の推進などの取組を行います。また、道路整備の促進など交通利便性の向上に向けた取組を行います。



〈長部田海床路〉

■ 土地利用

- JR 住吉駅北側周辺は、計画的な土地利用調整による開発等を誘導していくとともに、集落地の活力維持に必要な都市機能の確保に努めます。
- 農業の維持・活性化に向けて、無秩序な開発の抑制や担い手への農地集積・集約化等の取組について検討していきます。
- 空き家・空き地などの所有者を対象に、利活用に向けた制度の検討や周知などを行い、地域活性化を図ります。また、創業支援や新たな制度の検討や周知などを行い、地区の活性化を図ります。
- 水産業の維持・活性化に向けて、生産基盤の整備促進・強化を図りつつ、共同施設の整備支援等を図ります。また、住吉地区港湾浚渫土受入場（仮称）の埋め立て後について、関係機関と調整を図りつつ水産業の振興に資する土地利用も含め検討していきます。

■ 都市施設整備

- 高規格道路「熊本天草幹線道路」については、早期供用開始に向けた要望活動に努め、広域的な交通体系の強化を図ります。
- 宇土地区の都市機能拠点との連携を促進し、移動の利便性を向上させるための交通基盤の整備に努めます。また、J R 三角線（JR 住吉駅）や路線バスなどの公共交通相互の接続強化や待ち環境の整備など持続可能な地域公共交通に向けた見直しを行います。
- 国道 57 号沿いの各踏切周辺の道路環境の向上を推進するとともに、交差点や各踏切周辺の安全確保に向けた市道の道路改良を推進します。
- 県道 58 号宇土・不知火線と宇土南部農道の早期整備に向けた要望活動に努めるとともに、新たな市道の整備を推進し、道路相互間の接続強化を図ります。
- 水の安定供給維持を図るため、早期の水道施設更新に努めます。

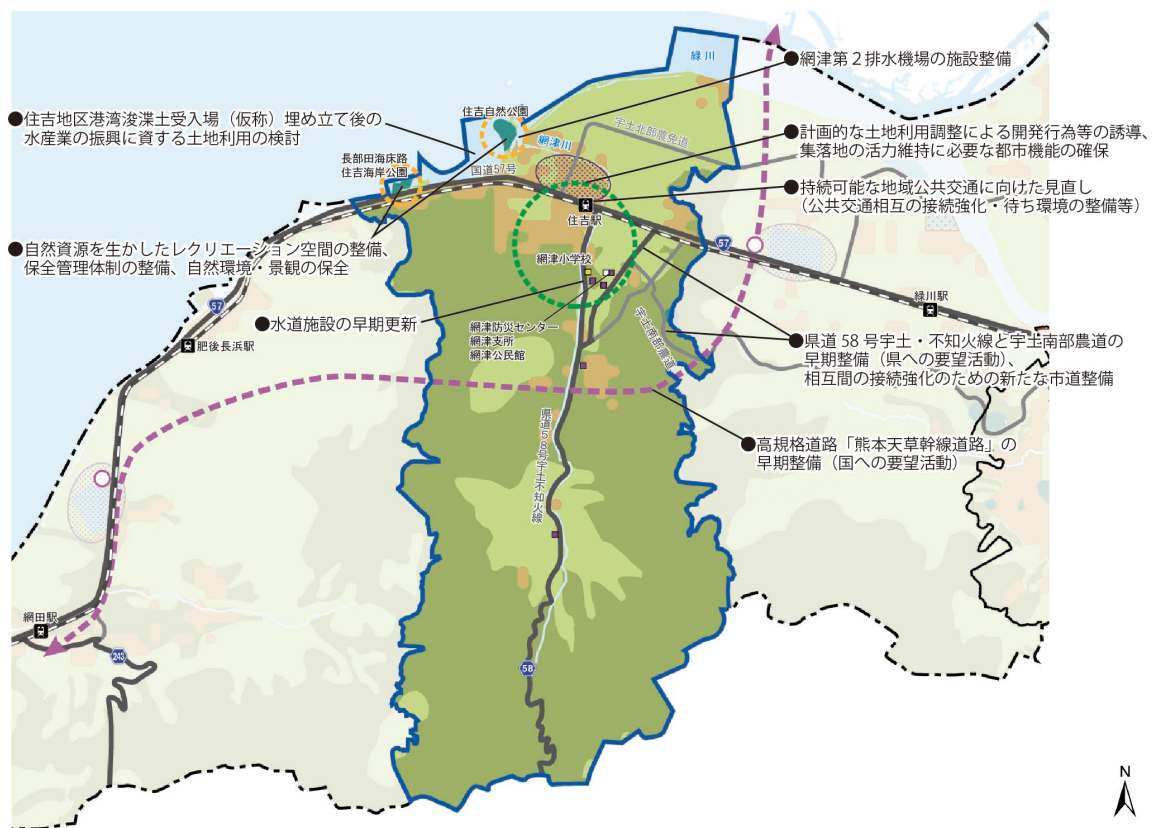
■ 自然環境・景観形成

- 地区の優良農地や河川等は、国道 57 号や JR 三角線から望める貴重な景観資源であるとともに、防災面においても重要な役割を持っているため、各種法規制との連携のもと保全を進め、景観形成の維持に努めます。また、地域住民とも協力しながらの保全管理体制を整え、自然環境や景観の保全を図ります。
- 産業や歴史、文化財、行事、祭などによって形成された集落景観は、市民に安心感を与えるとともに、地域への誇りを育み、地域の学習や交流の促進に寄与するため、その保全に努めます。
- 有明海に面した長くのびた海岸線は、古くから景勝の地として親しまれており、長部田海床路や住吉海岸公園、住吉自然公園等の自然資源を生かしたレクリエーション空間の整備を進めます。また、地域住民とも協力しながらの保全管理体制を整え、自然環境や景観の保全を図ります。
- 自然景観を広く周知するために、地区の景観に配慮した案内板の整備等を推進します。また、自然景観や観光資源の活用を推進するにあたり、地域住民の生活環境への配慮や観光客の観光体験等に悪影響のないよう、適切な施設管理や誘導等を図ります。

■ 安全安心まちづくり

- 排水機能向上に向けた、県管理河川である網津川下流部の網津第 2 排水機場の施設整備等を推進します。
- 水害、土砂災害防止のため、保水機能や土砂流出抑制を有する山林等の保全を図ります。
- 浸水想定区域にかかる集落地については、近接する高台に安全で昇り易く、短時間で避難できるよう避難路の整備を推進します。
- 県管理河川である網津川については、河川改修の推進に向けた要望活動に努め、治水対策を図ります。

■ 地区整備方針図（網津地区）



凡例

【土地利用】

- 商業・業務地
- 沿道市街地
- 産業振興地
- 住宅市街地
- 集落地
- 農地
- 公園・緑地
- 山林
- 河川・海岸
- 土地利用検討エリア
- 土地利用調整エリア

【基盤情報】

- 幹線道路
- その他道路
- 高規格道路
- 九州新幹線
- 鉄道
- 駅
- IC
- 庁舎
- 都市公園
- 小学校・中学校・高等学校
- 生涯学習施設・公民館・文化施設・体育施設
- 都市計画区域
- 用途地域
- 行政区域
- 地区境界
- 都市機能拠点
- 生活居住拠点
- 産業振興拠点
- レクリエーション拠点

【地区全体】

- 農業の維持・活性化（無秩序な開発の抑制・担い手への農地集積・集約化等）
- 空き家・空き地などの利活用に向けた制度の検討・周知、創業支援や新たな制度の検討・周知
- 水産業の維持・活性化に向けた生産基盤の整備促進・強化
- 宇土地区の都市機能拠点との連携促進（交通基盤整備）
- 国道 57 号沿いの各踏切周辺の道路改良（国への要望活動）、交差点や各踏切周辺の安全確保に向けた市道の道路改良の検討
- 優良農地・河川等の環境保全・景観形成、保全管理体制の整備
- 産業や歴史、文化によって形成された集落景観の保全
- 景観に配慮した案内板の整備、適切な施設管理や誘導
- 保水機能や土砂流出抑制を有する山林等の保全
- 浸水想定区域にかかる集落地の避難路の整備
- 網津川の河川改修等の整備（県への要望活動）

7. 網田地区

(1) 地区の現況

- 網田地区は、西部エリアに位置する約 2,060ha の地区です。有明海に面し、地区中央より県管理河川である網田川が流れており、地区の約 9 割が森林や農地となっています。
- 地区中央に網田支所が立地し、支所周辺や国道 57 号沿いに集落が点在しています。
- JR 肥後長浜駅、JR 網田駅、JR 赤瀬駅があるほか、国道 57 号が東西に通る、熊本・天草間を結ぶ骨格的な道路となっています。また、高規格道路「熊本天草幹線道路」や網田 IC（仮称）の整備が進められています。
- 人口の増減の見通しをみると、全域で減少率が高い傾向にあります。

【面積・割合】

	面積	割合
網田地区	2062.9	100.0%
用途地域	0.0	0.0%
用途白地地域	0.0	0.0%
都市計画区域外	2062.9	100.0%

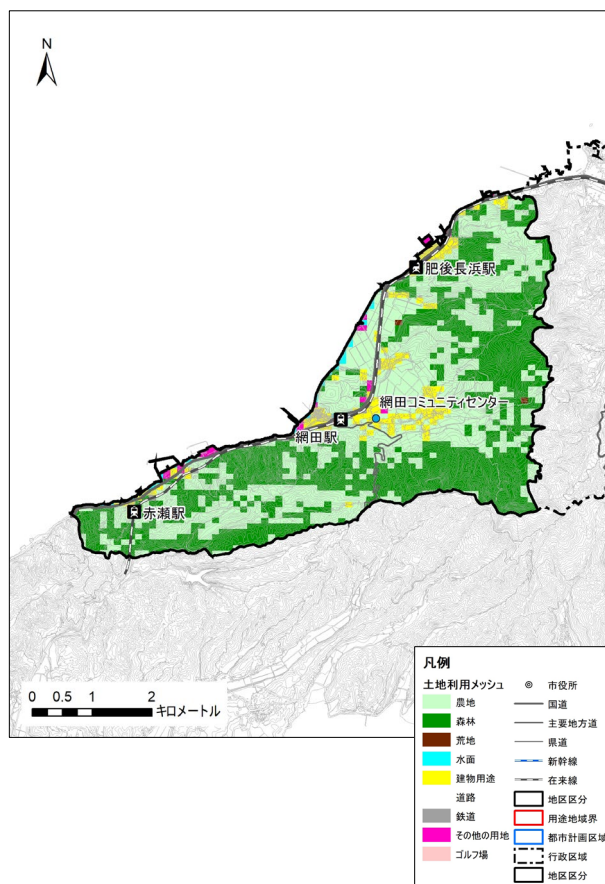
※面積は行政区をベースに GIS 集計による図上面積

【土地利用の状況】

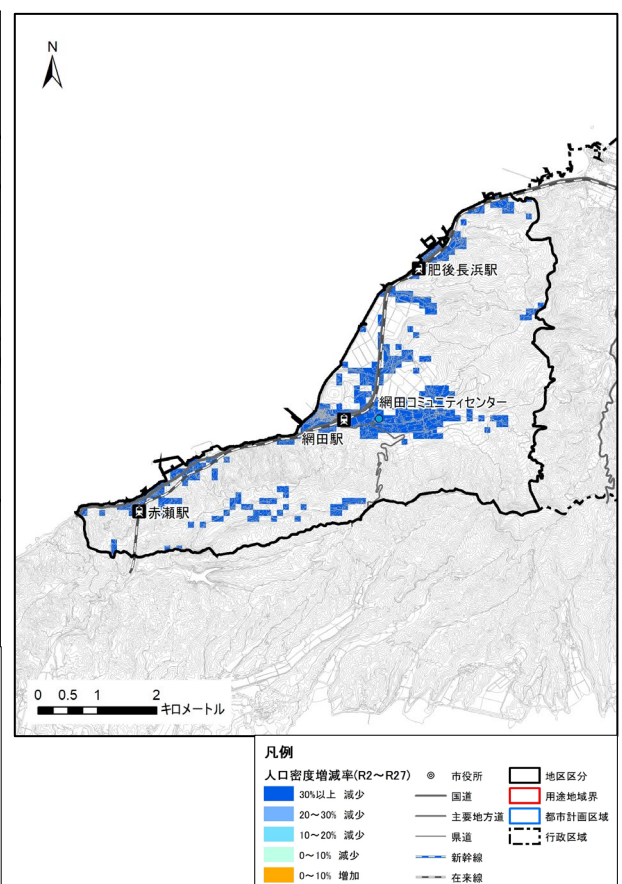
区域名	自然的土地利用				都市的土地利用					計 (ha)
	農地 (ha)	森林 (ha)	荒地 (ha)	水面 (ha)	建物 用途 (ha)	道路 (ha)	鉄道 (ha)	その他 の用地 (ha)	ゴルフ 場(ha)	
網田地区	44.7%	45.8%	0.2%	1.2%	6.3%	0.0%	0.7%	1.1%	0.0%	100.0%

【人口推計（R2-27 の増減率）】

	人口(人)			地域全体に 占める割合		人口密度(人/ha)	
	R2	R27	増減率	R2	R27	R2	R27
網田地区	2,846	1,688	-40.7%	100.0%	100.0%	1.3	0.8
用途地域	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0	0.0
用途白地地域	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0	0.0
都市計画区域外	2,846	1,688	-40.7%	100.0%	100.0%	1.3	0.8



資料：国土数値情報ダウンロードサービス



資料：国土交通省国土技術政策総合研究所

「将来人口・世帯予測ツール V3（令和2年国調対応版）」

【地区の魅力と課題（市民ワークショップの意見抜粋）】

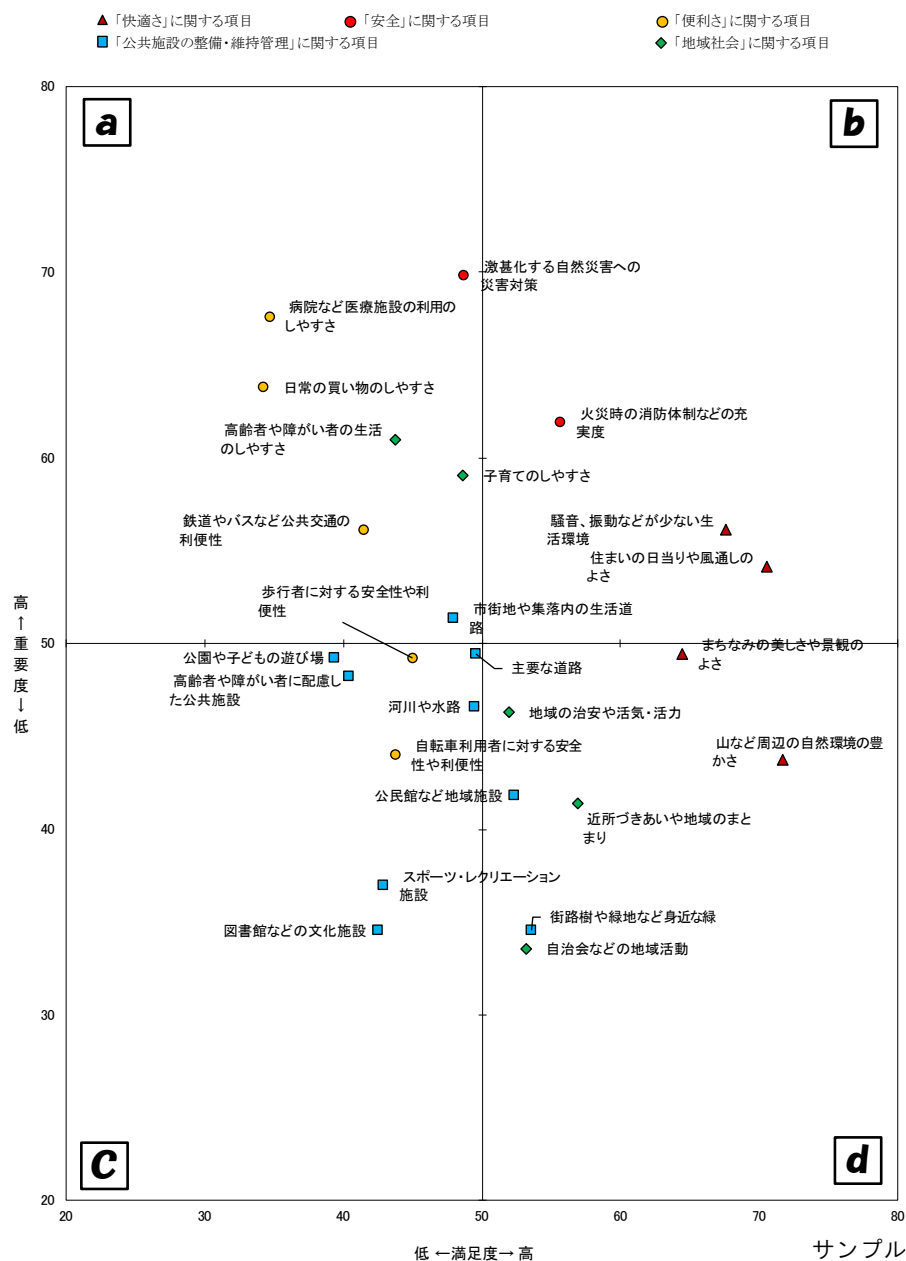
魅力	課題
・ 御輿来海岸、高台から見る農村風景 ・ 海産物や農産物が豊富 ・ 地区の繋がりが強い	・ 空き家が目立つ ・ 高齢者の移動手段が少ない ・ 一次産業の衰退

【20 年後に向けた市民意向（市民ワークショップの意見抜粋）】

・ 若者に住み続けたいと思われるまち ・ 自然災害に強いまち ・ 幸福満足度が高いまち

【市民意向（R5 市民アンケート結果より）】

・「安全」や「便利さ」、「地域社会」の項目の重要度が高い傾向にあり、特に「便利さ」については満足度が低い傾向にあります。



(2) まちづくりの課題

基本的課題	
土地利用	● 網田 IC（仮称）周辺の交通利便性を生かした優良企業の受け入れのための開発等が求められています。 ● 農業や水産業の維持・活性化に向けた取組の推進が求められています。 ● 空き家・空き地の利活用と地域活性化の推進が求められています。
都市施設整備	● 広域連携軸として見込まれる高規格道路「熊本天草幹線道路」の早期整備が求められています。 ● 都市機能拠点との連携強化と交通基盤の整備が求められています。 ● 西部エリア活性化の拠点として交流の促進が求められています。
景観形成 自然環境	● 集落景観の保全と地域の学習や交流の促進が求められています。 ● 自然景観資源の保全と地域住民との協力体制の確立が求められています。 ● 観光資源である海岸線の維持や御輿来海岸干潟景勝地の整備促進が求められています。 ● 産業振興拠点の緑化推進と周辺環境への配慮が求められています。
まちづくり 安全安心	● 水害・土砂災害防止のための対策が求められています。 ● 県管理河川の網田川等の河川改修の推進が求められています。

(3) まちづくりの目標

自然環境と地域に包まれた優しい暮らしのまち

(4) まちづくりの方針

網田地区は、宇土マリーナ、宇土マリーナ物産館や網田レトロ館といった西部エリア活性化の拠点となる地区であり、地域資源を生かしたレクリエーション空間の形成に向けた取組を行います。また、高規格道路「熊本天草幹線道路」の網田 IC（仮称）の早期整備に向けた要望活動に努めるとともに、アクセス性の向上を見越した網田 IC（仮称）周辺の土地利用の推進などを行います。



〈宇土マリーナ物産館〉

■ 土地利用

- 高規格道路「熊本天草幹線道路」の網田 IC（仮称）周辺については、交通利便性の高さを生かし、今後優良企業の受け皿として、計画的な土地利用調整による開発等の誘導を図ります。
- 農業の維持・活性化に向けて、無秩序な開発の抑制や担い手への農地集積・集約化等の取組について検討していきます。
- 空き家・空き地などの所有者を対象に、利活用に向けた制度の検討や周知などを行い、地域活性化を図ります。また、創業支援や新たな制度の検討や周知などを行い、地区の活性化を図ります。
- 水産業の維持・活性化に向けて、生産基盤の整備促進・強化を図りつつ、共同施設の整備支援等を図ります。

■ 都市施設整備

- 高規格道路「熊本天草幹線道路」については、早期供用開始に向けた要望活動に努め、広域的な交通体系の強化を図ります。
- 宇土地区の都市機能拠点との連携を促進し、移動の利便性を向上させるための交通基盤の整備に努めます。また、J R 三角線（JR 肥後長浜駅・JR 網田駅・JR 赤瀬駅）や路線バスなどの公共交通相互の接続強化や待ち環境の整備など持続可能な地域公共交通に向けた見直しを行います。
- 国道 57 号沿いの各踏切周辺の道路環境の向上を推進するとともに、交差点や各踏切周辺の安全確保に向けた市道の道路改良を推進します。
- 宇土マリーナ、宇土マリーナ物産館や網田レトロ館については、西部エリア活性化の拠点として、地区の活性化に寄与するよう魅力向上に努めます。
- 御輿来海岸干潟景勝地については、自然・観光資源を活用した取組として、駐車場の拡張や新たな展望所の設置やアクセス道路の拡張を推進するとともに、戸口浄化センター横グラウンドの駐車場整備を行い、地区の活性化を図ります。
- 西部老人福祉センターについては、地区の高齢者からの各種相談に応じるとともに、高齢者の地域内での交流を推進します。更に、健康増進や教養の向上や憩いの場としての提供も推進します。

■ 自然環境・景観形成

- 地区の優良農地や河川等は、国道 57 号や JR 三角線から望める貴重な景観資源であるとともに、防災面においても重要な役割を持っているため、各種法規制との連携のもと保全を進め、景観形成の維持に努めます。また、地域住民とも協力しながらの保全管理体制を整え、自然環境や景観の保全を図ります。
- 産業や歴史、文化財、行事、祭などによって形成された集落景観は、市民に安心感を与えるとともに、地域への誇りを育み、地域の学習や交流の促進に寄与するため、その保全に努めます。
- 開発等を進める地域では、周辺環境や景観に配慮し、緑化等を推進します。
- 有明海に面した長くのびた海岸線は、古くから景勝の地として親しまれており、宇土マリーナ、宇土マリーナ物産館や御輿来海岸等の自然・観光資源を生かしたレクリエーション空間の整備を進めます。また、地域住民とも協力しながらの保全管理体制を整え、自然環境や景観の保全を図ります。
- 自然景観や文化等を広く周知するために、地区の景観に配慮した案内板の整備等を推進します。また、自然景観・観光資源の活用を推進するにあたり、地域住民の生活環境への配慮や観光客の観光体験等に悪影響のないよう、適切な施設管理や誘導等を図ります。

■ 安全安心まちづくり

- 網田排水機場改修の早期完了に向けた要望活動に努め、排水機能向上を図ります。また、戸口防潮堤の整備を促進し防災の強化を図ります。
- 水害、土砂災害防止のため、保水機能や土砂流出抑制を有する山林等の保全を図ります。
- 浸水想定区域にかかる集落地については、近接する高台に安全で昇り易く、短時間で避難できるよう避難路の整備を推進します。
- 県管理河川である網田川については、県による河川改修等の整備促進に向けた要望を行い、実現を図ります。

■地区整備方針図（網田地区）

